

2024 年度

年次報告書

公益財団法人ヤマト福祉財団

目 次

1. 2024 年度事業報告書	1
(公1) 助成事業	
2024 年度中に実施した助成事業	
I. 障がいのある大学生への奨学金の支給	
II. 2024 年度ヤマト福祉財団助成金	
1. 障がい者給料増額支援助成金	
2. 障がい者福祉助成金	
(公2) 研修・育成事業	
2024 年度 障がい者の働く場パワーアップフォーラム実施報告	
2024 年度「実践塾」実施報告	
2024 年度「農福連携実践塾」実施報告	
▼ぶどう栽培塾	
▼たまねぎ栽培塾	
「販路拡大研究会」活動報告	
夢へのかけ橋実践塾 新堂塾 OBOG フォローアップ研修会	
「自然栽培パーティ」活動報告	
「ゆいジョブ！実行委員会」活動報告	
(公3) 表彰事業	
ヤマト福祉財団小倉昌男賞の贈呈	
(公4) 広報・啓発等事業	
全Aネット（就労継続支援 A 型事業所全国協議会）の報告	
日本障害フォーラム（JDF）の報告	
（NPO）医療的ケア児者と家族を社会につなぐネットワークの報告	
ヤマトグループボランティアプロジェクト活動報告	
(公5) 復興・再生支援事業	
令和 6 年能登半島地震	
2. 2024 年度決算概要	63
賃借対照表	
正味財産増減計算書	
正味財産増減計算書内訳表	
財務諸表に対する注記	
財産目録	
附属明細書	
事業報告 附属明細書	
収支決算書	
監査報告書	
3. 補 足	77
2024 年度寄付金寄贈者名簿	
賛助会員数一覧	
役員名簿	
4. 2025 年度事業計画書	83
同 収支予算書	
資金調達及び設備投資の見込みについて	

1. 2024 年度事業報告書

2024年度事業報告書

(自・2024年4月1日～至・2025年3月31日)

1. 庶務事項

- (1) 財団設立年月日 1993年9月10日
- (2) 基本財産
投資有価証券
ヤマトホールディングス株式会社(株式)
3,554,500株 6,031百万円
- (3) 役員等
- | | |
|-------------------|----|
| ①理事長 | 1名 |
| ②理事 | 8名 |
| ③監事 | 2名 |
| ④評議員 | 9名 |
| ⑤福祉助成金選考委員 | 5名 |
| ⑥ヤマト福祉財団小倉昌男賞選考委員 | 5名 |
- (4) 賛助会員
個人会員 68,232人
- (5) 事務局
- | | |
|-------|----|
| ①常務理事 | 1名 |
| ②事務局長 | 1名 |
| ③職員 | 4名 |

2. 事業報告

国内では、4月より事業者による障がい者への合理的配慮の提供が義務化されたほか、7月には最高裁で旧優生保護法の違憲判決が示されるなど、障がいのある方々を取り巻く環境には一定の改善が見られました。一方、令和6年能登半島地震および令和6年9月能登半島豪雨においては、障がい者に対する十分な支援が行き届かず、福祉事業所においては今なお正常な体制が確保できていない拠点が存在するなど、災害時における幾多の課題も顕在化しました。

こうした中、財団では設立以来30年間の足跡を記録した記念誌『小倉昌男の思いをつないで』を発行し、関係者に配布しました。また、新たな取り組みとして「お菓子の販路拡大研究会」を発足し、販路拡大に苦戦している事業所の収入拡大と工賃アップに向けた勉強研究会がスタートしたほか、2025年11月開催予定のデフリンピックに先駆け「放送バリアフリー促進に向けてのデフスポーツ中継」に対する助成を行いました。このほか、令和6年能登半島地震については、JDF(日本障害フォーラム)より定期的な情報収集を行い、被災した障がい者福祉事業所に対する助成を行いました。

(公1)助成事業**①奨学金支給**

障がい乗り越えて、社会の役に立ちたいと学ぶ大学生のために、月5万円（返済不要）の奨学金を支給しています。2024年2月6日から3月29日までを応募書類請求期間、4月1日から5月1日を申請期間とし、70名の応募がありました。6月10日に開催の選考委員会では下記8名を新たに選考し、奨学生は40名となりました。

氏名	学年	在学大学	学部学科
遠藤 あゆみ	4年生	金沢大学	医薬保健学域 医学類
山本 葉奈	4年生	熊本学園大学	社会福祉学部 第2部社会福祉学科
土屋 彩華	3年生	金城学院大学	薬学部 薬学科
石垣 敦也	1年生	東京電機大学	理工学部 理工学科
石田 華蓮	1年生	九州大学	教育学部 教育学科
鈴木 大惺	1年生	筑波技術大学	保健科学部 保健学科
玉置 陽葵	1年生	上智大学	総合人間科学部 社会福祉学科
松永 健由	1年生	神奈川大学	工学部 機械工学科

②助成金

昨年に引き続き助成金事業として、①障がい者の給料増額を目的とする「障がい者給料増額支援助成金」（50万円から500万円の範囲）と、②ボランティア活動等を含め障がい者の幸せにつながる事業・活動を目的とする「障がい者福祉助成金」（上限100万円）の2つの部門を設定しました。今年度は、2023年10月1日から11月30日までを公募期間とし、222件の応募がありました。2024年3月18日に開催の選考委員会では、合計64件の助成対象施設・団体を決定。5月以降にヤマト運輸（株）の協力を得ながら各地で贈呈式を開催しました。

助成部門	応募	決定	決定金額
① 障がい者給料増額支援助成金	90件	34件	111,820千円
② 障がい者福祉助成金 (会議・講演会、ボランティア活動、 文化・スポーツ活動、調査・研究・出版)	132件	30件	20,980千円
合計	222件	64件	132,800千円

※助成先一覧 9～30ページ

(公2) 研修・育成事業

① セミナー事業「障がい者の働く場パワーアップフォーラム」

本年度は「いま改めて『働く意味』を問う」を共通テーマとし、東京と大阪の2会場にてリアル開催を行いました。今回は対面での交流を重視し、参加者が登壇者に直接対話や質問ができる「交流会」を設けました。参加人数は全2回で239名、累計13,860名となりました。また、当日参加ができない方や再視聴を希望される方を対象に3月末まで動画配信を行い、のべ約2,400回の視聴がありました。

開催地	会場	開催日	参加人数
東京	東京都立産業貿易センター 浜松町館	7月5日	114人
大阪	マイドームおおさか	8月22日	125人
合 計 (累 計)			239人 (13,860人)

② 雇用・促進事業

社会福祉法人ヤマト自立センターのスワン工舎新座・スワン工舎羽田では、今期15名(累計268名)が一般就労したほか、12名(累計112名)の就労定着支援を実施しました。また、2011年に立ち上げた就業・生活支援事業として、今期は76名の登録者に対し就業者は48名、実習者は41名の実績がありました。

このほか、スワン工舎から企業に就職した卒業者が一堂に会する「第16回卒業者の集い」が4月20日に開催されました。職員からは11名の卒業者に向けてエールが送られたほか、本年度は永年勤続者の就職先のご担当者を来賓としてお招きし、13名の永年勤続者を祝福しました。

③ 育成プロジェクト

I. 実践塾

農福連携実践塾は、熊田芳江氏(第14回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者)の統括により、①林博文氏(第16回同賞受賞者)が塾長の「ぶどう栽培塾」と、②農福連携実践塾の卒業生で社会福祉法人ゆずりは会 菜の花の小淵久徳氏が塾長の「たまねぎ栽培塾」の2塾を開講し、それぞれの圃場で「ぶどう」と「たまねぎ」の2品目に特化した実践指導を行いました。1期目が終了した本年は、それぞれ新たなメンバーを迎え、2期目の活動を開始しました。

また、2024年度より、障がい者福祉事業所でつくられた商品の販路拡大の検証・検討を行うための販路拡大研究会の活動を2つに分離し、①中崎ひとみ氏(第10回同賞受賞者)を座長とした、就労系事業所に対して一般公募した研究生10名による「勉強研究会」と、②広島県内の有志による就労系事業所メンバーにより立ち上げた「ヒロシマルクト」の2組織の活動を伴走支援しました。勉強研究会は10月、1月、2月の計3回集合勉強会を実施、ヒロシマルクトは11月30日にマルシェを開催しました。

II. 「自然栽培パーティ」プロジェクト

水稲自然栽培検証プロジェクトより発展した「一般社団法人農福連携自然栽培パーティ全国協議会」は発足9年目となりました。本年は新嘗祭に合わせて11月23日に鹿児島市のライカ南国ホールで「第9回自然栽培パーティ全国フォーラム」を開催し、全国から170名の参加者が集いました。3月末現在139施設が会員登録しています。

Ⅲ. ゆいジョブ!プロジェクト

ゆいジョブ!は、2018年パワーアップフォーラム沖縄で結成したビジネスマッチング分科会を前身とする沖縄県内の福祉事業所職員を中心に活動する団体です。障がいのある方の一般企業への就労を目指し、県の経済団体や教育機関等も交え、イベント開催やホームページの運営等幅広い活動を展開しています。

「おしごと発見フェア」は2024年度で3年目を迎え、昨年に引き続き沖縄コンベンションセンター展示棟で開催しました。オープニングセレモニーでは沖縄県知事からいただいた応援メッセージ動画を投影したほか、毎回好評のおしごとチャレンジ体験会は出展企業を増設して、来場者に介護技術や動画編集作業など様々な業務を実体験していただきました。合同企業説明会、就職準備相談会ともブースは終日満席で、来場者数は580名を超え大盛況となりました。来場者からは、地元企業担当者と接点を持ち就労に繋がった方も輩出しており、障がいがあっても一般企業への就労を具体的にイメージ出来るイベントとして定着して来ました。

ホームページのリニューアルにも着手し、障がいのある方々と企業担当者双方の利便性向上につなげます。

(公3)表彰事業

障がい者の経済的な自立やノーマライゼーションに貢献した個人を表彰するため、第25回ヤマト福祉財団小倉昌男賞の贈呈事業を行いました。6月1日から8月31日まで公募を行い、10月15日の選考委員会で、賀村研氏(株式会社カムラック代表取締役 福岡県福岡市)と酒井勇幸氏(社会福祉法人いなりやま福祉会常務理事 長野県千曲市)の受賞が決定。贈呈式は12月5日、一般社団法人日本工業倶楽部にて開催し、お二人の受賞を祝福しました。

賀村氏は、IT業界において障がい者の特性に応じた段階的支援を行う人材育成モデルを構築し、ノウハウを全国各地のパートナーにも提供しながら高賃金や一般就労を広く実現していること、酒井氏は、自らの視覚障がいをもものともせず県内初の共同作業所を設立し、後進の育成にも注力しながら約60年間に亘り地域の障がい者福祉の向上に貢献してきたことが高く評価されました。

(公4)広報・啓発等事業

①広報事業

財団ニュースを第82号から第85号まで年4回発行し、社員の自宅まで直接配布しました。このほか、一般購読希望者と福祉事業所あわせて約5,000部の無料配布を行いました。紙面データについてはホームページにも掲載し、幅広く広報を行っています。

②その他事業

I. 他団体等への活動支援

イ) 全Aネットによる「良き就労継続支援A型事業所の拡大支援事業」

全国のA型事業所の経営の健全化をはかり、働く障がいのある人のディーセントワークの実現を一層進めるため、NPO法人就労継続支援A型事業所全国協議会(全Aネット)による優良A型事業所認定制度の審査・認定委員会開催に対して助成しました。

2024年度からは従来の優良認定に加えて「ベーシック認定」が開設されました。今回新たに優良認定は6事業所、ベーシック認定は6事業所が認定され、認定事業所の合計は64事業所となりました(優良認定事業所のうち3年次更新で8事業所が更新、1事業所が更新辞退)。加えて、福祉のガバナンスや良き経営を理解してもらうことを目的に、全国4か所で開催した就労支援セミナーについても助成を行いました。

ロ) 日本障害フォーラムによる「障害者の権利条約」に関する事業

日本障害フォーラム(JDF)は設立20周年を迎えました。12月の全国フォーラムでは、障害者権利条約の推進や災害支援など20年間の取り組みを振り返るとともに、これまでJDFに共同助成を行ってきた当財団を含む5団体に対し感謝状の贈呈が行われました。

また、国内3カ所において地域フォーラムが開催され、2022年に公表された国連障害者権利条約や総括所見に関する学びを深めるとともに、インクルーシブな社会を実現するための施策や取り組みについて情報が共有されました。

ヤマト福祉財団は、JDF設立以来20年間にわたり（公財）助成財団センターを窓口とした共同助成を継続しています。

ハ) 医療ケア児者と家族を支える団体の活動支援

NPO法人医療的ケア児者と家族を社会につなぐネットワーク（ブリッジネットワーク）は、医療的ケア児者の家族の就労に向けた資格取得支援を行うとともに、夢応援セミナー「お母さんの働く夢をかなえたい」を7月に沖縄、3月に愛媛の2カ所で開催しました。また、社会的認知のための広報・啓発事業としてYouTubeにてPR動画を公開し、法人の取り組みや医療的ケア児者の社会的なサポートの重要性を伝えました。

II. ボランティアプロジェクト

ヤマト運輸労働組合とヤマト福祉財団が連携し、ヤマトグループ社員が地域の障がい者施設の利用者や職員と繋がり、交流を深めていくボランティア活動を推進しています。

「農業編」については、春と秋にそれぞれ2カ所で農作業のお手伝いを実施。本年度は茨城県石岡市と青森県十和田市の福祉施設で実施しました。「地域福祉活動編」については、ヤマト運輸労働組合青年部の協力のもと、「ヤマト繋がるプロジェクト」としてNPO法人アクションポート横浜に所属する大学生と一緒に交流イベントを企画・運営しました。

III. その他

イ) 放送バリアフリー促進に向けてのデフスポーツ中継

（一財）全日本ろうあ連盟主催による「第58回全国ろうあ者体育大会in群馬」の最終日となる9月15日、日本初の試みとなる「デフスポーツ中継」（手話によるテレビ実況・解説配信）が群馬県庁内tsulunos放送スタジオにて行われました。当日はプロのアナウンサーや解説者・ディレクターから専門研修を受講した修了生のうち、選抜メンバー25名が3時間にわたりデフスポーツの実況と解説および中継サポートを行いました。この取り組みは、聴覚障がいのある方に向けた今後の放送アクセシビリティの向上やバリアフリーの仕組みの構築に向けた大きな一歩となりました。

ロ) ベルギーから学ぶ共同創造の精神医療改革2025

共同創造の精神保健福祉をすすめる会による「ベルギーから学ぶ共同創造の精神医療改革2025～当事者・家族 ネットワーク 公的責任～」が2月19日に全水道会館で開催されました。精神科病床と平均在院日数が世界一の日本の精神医療の現状を変えるため、ベルギーの精神医療改革を中心的に担ってきた精神保健改革コーディネーターのBernard Jacob氏を招聘した今回の講演会では、会場とオンラインで350人を超える参加者が集まり、日本の精神医療への展望を見出すため、現在も続くベルギーの精神医療改革の先進的な取り組みについて学びを深めました。

(公5) 復興・再生支援事業

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震において、被災した障がい者および障がい者福祉事業所等に対して必要な支援を行う目的のため、本年度は石川県七尾市の社会福祉法人野の花会に対しカンプレッサー代替資金として1百万円の助成を行いました。

また、昨年度に当財団が助成した支援金を活用し、5月には七尾市にJDF能登半島地震支援センターが開設され、JDFを構成する全国13の障がい者関係団体からのボランティアを受け入れ、地域の障がい者等への個別支援を実施しました。

■ 賛助会員の状況

当財団の母体であるヤマトホールディングス（株）とそのグループ会社で組織する賛助会員数は68,232人となっています。

(公1) 助成事業

2024年度中に実施した助成事業

I. 障がいのある大学生への奨学金の支給

■ 40名

	大学名	学年	氏名
1	鹿児島大学	5年生	木村 栄喜
2	安田女子大学	5年生	野林 千聖
3	日本大学	4年生	岩川 佳士乃
4	琉球大学	4年生	上原 直美
5	花園大学	4年生	植松 健太
6	金沢大学	4年生	遠藤 あゆみ
7	川崎医療福祉大学	4年生	川角 祐太
8	群馬大学	4年生	栗田 鈴華
9	長崎国際大学	4年生	立石 有梨佳
10	日本大学	4年生	長縄 創也
11	皇學館大学	4年生	中森 七海
12	筑波技術大学	4年生	船山 滉介
13	熊本学園大学	4年生	山本 栞奈
14	日本社会事業大学	4年生	吉田 あさひ
15	京都府立大学	4年生	若林 直央
16	筑波大学	4年生	渡辺 陽
17	筑波技術大学	3年生	一井 元希
18	和光大学	3年生	北田 晴人
19	立命館大学	3年生	五井 比奈子
20	明治大学	3年生	小林 紹子

	大学名	学年	氏名
21	静岡県立大学	3年生	三枝 巧実
22	宮城学院女子大学	3年生	佐藤 かえで
23	三重大学	3年生	世古口 彩花
24	立命館アジア太平洋大学	3年生	田島 和弥
25	金城学院大学	3年生	土屋 彩華
26	京都大学	3年生	福谷 帆香
27	大阪公立大学	3年生	宮口 陽邑
28	早稲田大学	3年生	向原 毅貴
29	東京農業大学	3年生	森 柊也
30	名古屋大学	3年生	吉野 克利
31	北九州市立大学	2年生	伊藤 優希
32	筑波技術大学	2年生	黒木 雅也
33	東京外国語大学	2年生	坂本 彩華
34	慶應義塾大学	2年生	永井 慶吾
35	東京情報大学	2年生	原 昂大
36	東京電機大学	1年生	石垣 敦也
37	九州大学	1年生	石田 華蓮
38	筑波技術大学	1年生	鈴木 大惺
39	上智大学	1年生	玉置 陽葵
40	神奈川大学	1年生	松永 健由

Ⅱ. 2024年度ヤマト福祉財団助成金

(障がい者給料増額支援助成金・障がい者福祉助成金 助成件数及び金額合計：63件／1億2,975万円)

1. 障がい者給料増額支援助成金 実施一覧(33件／1億877万円)

単位(万円)

	所在地	福祉事業所・団体名	助成対象	実施金額
1	秋田県大館市	比内ヒルズ・ふもとの家	トラクター購入資金	500
2	埼玉県羽生市	多機能型事業所空と雲の家福祉作業所	蜂蜜製造小屋の拡張、改修および設備更新工事資金	490
3	滋賀県高島市	ホトラ舎	干し芋乾燥機の新設と加工場の改修工事資金	477
4	広島県福山市	にこにこ会	焼肉のたれ製造電気式攪拌機付き回転釜購入資金	500
5	北海道札幌市中央区	多機能型就労継続支援B型事業所 リベラ	ダブルキャブ(車両)の購入資金	500
6	北海道旭川市	ニムピン	ウエス製造用パッキングマシーン購入資金	150
7	北海道函館市	地域活動支援センターおはよう	タイヤショベルの購入資金	400
8	宮城県仙台市宮城野区	ぴあ	燻製機の購入資金	396
9	福島県東白川郡塙町	障がい者就労サポートセンター ウッドピアはなわ	ぶどう栽培棚、ハウス等関連設備の整備資金	500
10	群馬県高崎市	障害福祉サービス事業所エール	農作業用ハイクリアランス仕様トラクターの購入資金	250
11	群馬県甘楽郡甘楽町	プレパレ	音楽コミュニティスペースの改装資金	250
12	埼玉県北葛飾郡杉戸町	れんげそう作業所	農業用機械購入資金	400
13	埼玉県本庄市	佐久間さんち	弁当製造建屋の増築資金	200
14	神奈川県横浜市鶴見区	ふれんど	小型卓上巻き寿司機の購入資金	156
15	神奈川県小田原市	ほうあん第一しおん	車両の購入資金	142
16	山梨県都留市	みとおし	食品加工のコンベクションオープン購入資金	500
17	新潟県新潟市中央区	スワンカフェ&ベーカリー新潟店	製造パンの訪問販売・配達用軽ワゴン車購入資金	100
18	新潟県新潟市西区	ラグーン	6次産業化に向け厨房設備機器購入、改修工事、 商品デザイン等に係る資金	500
19	福井県敦賀市	野坂の郷	洗濯機・乾燥機の購入	400
20	福井県小浜市	つみきハウス	新商品開発、製造のベーカリーオープン等購入資金	280
21	岐阜県恵那市	森の生活	温度管理可能な発酵・熟成用ステンレスタングの購入資金	264
22	静岡県浜松市天竜区	みのり	ロボット草刈機の購入資金	68
23	三重県四日市市	サポートセンターあいぷろ	ぶどう栽培用の垣根と農機具の購入資金	380
24	大阪府枚方市	障がい者複合施設いそしまカーム	運搬用の軽トラック購入資金	129
25	大阪府東大阪市	ワークワーク	アリゲーターシャーリング(挟み式切断機) 油圧式HAS-300型購入資金	360
26	大阪府泉南市	夢楽人	運搬車(1.3t)パネルバンの購入資金	450
27	和歌山県 日高郡みなべ町	なかよし作業所	円型振動ふるい機購入資金	196
28	福岡県糸島市志	MUKA	剪定残滓チップ、おが粉化用の樹木粉碎機購入資金	500
29	熊本県熊本市南区	第二城南学園就労継続支援 B型事業所	食品乾燥機購入資金	160
30	大分県豊後大野市	ロイヤルウォッシュ	私物洗濯代行サービス事業増に向け2段式乾燥機の 購入資金	368
31	宮崎県都城市	CBSリネンサービス年見事業所	業務用水洗機・乾燥機の増設資金	495
32	宮崎県延岡市	すまいる作業所	ゴミ圧縮機購入のための資金	50
33	沖縄県国頭郡本部町	スマイル	セメントレス舗装製品の加工機械配備資金	366

1

比内ヒルズ・ふもとの家（秋田県大館市） | 就労継続支援B型 |



■トラクター購入資金 ■助成金：5,000,000円

農業を委託事業から自主事業へ

比内ヒルズ・ふもとの家では、地元の認定農業者と連携し、「いぶりがっこ」と「黒にんにく」の生産・加工・販売を行っています。「いぶりがっこ」は2020年の設立当初から手がけ、種蒔き～収穫～加工の全行程で連携し作業に取り組み、ネット通販「こだわりAKITAセレクトショップ」で2021年には年間売上一位の実績があります。

利用者さんのほとんどが農業未経験者ですが、農業者から指導を受けて取り組む中で利用者さんの野菜を育てる意欲や変化を見て、農業を自主事業で行うことを考えています。じつは、連携する認定農業者の高齢化もあり収穫量の減少で、加工に必要な野菜を購入しているのが現状です。当事業所が自主事業で野菜を収穫・供給することで、農業者は外部調達が必要なくなります。

トラクターの導入は、生産性の向上と労働負荷の軽減です。アタッチメントを必要に応じて装備することで、耕耘、畝立て、マルチ張り、播種、肥料散布、草刈り、収穫物の運搬などの作業が可能になります。生産向上で利用者工賃向上を実現します。

2

多機能型事業所 空と雲の家福祉作業所（埼玉県羽生市） | 就労継続支援B型 |

■蜂蜜製造小屋の拡張、改修および設備更新工事資金
■助成金：4,900,000円

蜂蜜製造小屋拡張で売上アップを目指す

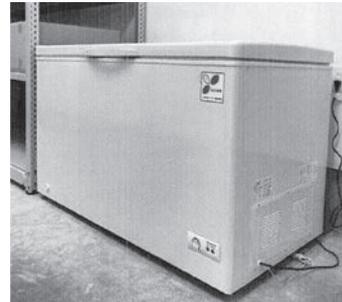
空と雲の家作業所は、2008年に養蜂事業をスタート。当時は採蜜量50kg前後でしたが、2023年度には年間採蜜量1tまでに成長しました。「100%天然の空雲はちみつ」として認知度も高まり、道の駅をはじめとした店頭販売、羽生市ふるさと納税返礼品、観光協会からの推奨品として認定されています。養蜂事業スタート時に仮の採蜜小屋として譲り受けた、プレハブ小屋で作業を行っていますが、これ以上の採蜜量を増やすことが限界です。

助成金で、①採蜜小屋を広げ、巣箱の搬入・採蜜を行う作業スペースと、衛生面を配慮して瓶詰め・洗浄作業を行う作業スペースを分割。②小屋の雨漏りや床抜け、LED照明、空調設備を整え、夏場冬場の働く場の作業改善を実施。③重い巣箱を小屋へ運びやすくするためにコンクリートの搬入路造成を実施。

作業場の環境改善により、作業効率を向上させるとともに蜜蝋などはちみつ関連商品の開発も行き、販売収入増年増5%以上を目標とし、全国平均工賃を上回り続けることを目指します。

3

ホトラ舎（滋賀県高島市） | 就労継続支援B型 |



■干し芋乾燥機の新設と加工場の改修工事資金 ■助成金：4,770,000円

新干し芋乾燥機の導入で生産量3倍、売上14倍へ

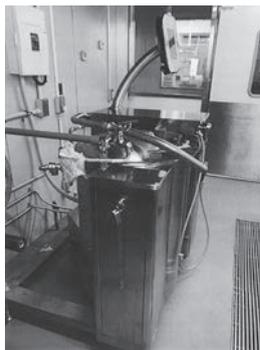
年間を通じて、グループ会社から干し芋・切り干し大根・干し椎茸などの食品加工の作業を受託、高齢化が進む地域の農家さんへ援農を行っています。

元々空き家だった住宅の倉庫に、事業所設立当初に購入した中古の乾燥機を設置していますが、機械もすでに生産終了し、故障した時の修理ができず、なにより生産量にも限界があります。温度や湿度管理についてもその日の天気の影響され、生産工程の中で衛生面の課題があり、安定した品質での製造が難しい状況です。

助成金で、新しい乾燥機を設置するための食品加工施設の改修工事、干し芋乾燥機を導入します。これにより、干し芋、切り干し大根、干し椎茸の受託作業に加え、新規自主事業として、販路拡大・収益の増加が見込める干し芋加工の商品開発・販路拡大を進めます。新しい干し芋乾燥機の導入で、1日に現状の3倍の製造が可能となり、現状の14倍以上の粗利が見込めます。自主事業化することで粗利益のほとんどを工賃原資にできるため、さらなる工賃向上が可能です。

4

にこにこ会（広島県福山市） | 就労継続支援A型 |



■焼肉のたれ製造電気式攪拌機付き回転釜購入資金
■助成金：5,000,000円

作業効率の向上と安定した品質で、製造数の増加、増収へ

にこにこ会では、焼肉のたれ製造・コロック製造・関東串製造など食品製造で、地元の特産品を使った商品を企業や地元のスーパーに卸しています。特に法人設立当初から25年にわたり製造を続けている焼肉のたれ製造は、年間10万本出荷の実績で収入の柱となっていますが、原材料費の高騰や光熱費・人件費の値上がりで、経営環境が厳しい状況です。

現在使用している電気回転釜は、原材料攪拌、温度管理の調整も手動で行い1日8回の製造が限度です。そこで電気式攪拌機付き回転釜の導入を計画しました。導入により、火加減と攪拌、温度管理が自動のため、安定した商品の均一化が計れるようになります。また、作業効率の向上と安定した製造数を確保、自動攪拌付きのため手動で行っていた利用者の負担軽減になります。なにより、だれもが製造に携われるようになり、利用者の仕事の幅が広がり、にこにこ会の作業全般の製造数の増加が可能となり増収に繋がります。

助成先

助成対象事業の内容および助成額

5

多機能型就労継続支援B型事業所リベラ（北海道札幌市中央区）



■ダブルキャブ（車両）の購入資金
■助成金：5,000,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

6

ニムビン（北海道旭川市）



■ウエス製造用パッキングマシン購入資金 ■助成金：1,500,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

7

地域活動支援センターおはよう（北海道函館市）



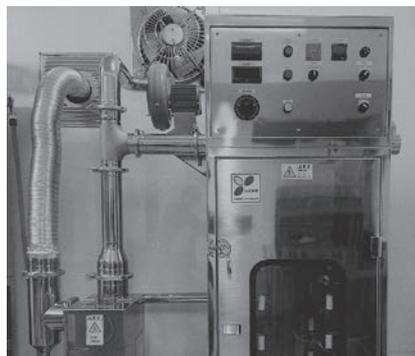
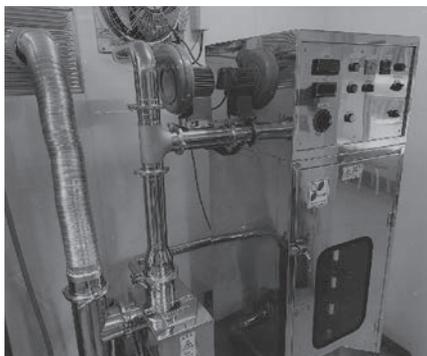
■タイヤショベルの購入資金 ■助成金：4,000,000円

助成先

8

ぴあ (宮城県仙台市宮城野区)

助成対象事業の内容および助成額



■ 燻製機の購入資金 ■ 助成金: 3,960,000円

助成先

9

障がい者就労サポートセンターウッドピアはなわ (福島県東白川郡塙町)

助成対象事業の内容および助成額



■ ぶどう栽培棚、ハウス等関連設備の整備資金 ■ 助成金: 5,000,000円

助成先

10

障害福祉サービス事業所エール (群馬県高崎市)

助成対象事業の内容および助成額



■ 農作業用ハイクリアランス仕様トラクターの購入資金
■ 助成金: 2,500,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

11 プレパレ (群馬県甘楽郡甘楽町)



■音楽コミュニティスペースの改装資金 ■助成金:2,500,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

12 れんげそう作業所 (埼玉県北葛飾郡杉戸町)



■農業用機械購入資金 ■助成金:4,000,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

13 佐久間さんち (埼玉県本庄市)



■弁当製造建屋の増築資金 ■助成金:2,000,000円

助成先

14 ふれんど (神奈川県横浜市鶴見区)

助成対象事業の内容および助成額



■小型卓上巻き寿司機の購入資金 ■助成金: 1,560,000円

助成先

15 ほうあん第一しおん (神奈川県小田原市)

助成対象事業の内容および助成額



■車両の購入資金 ■助成金: 1,420,000円

助成先

16 みとおし (山梨県都留市)

助成対象事業の内容および助成額



■食品加工のコンベクションオープン購入資金 ■助成金: 5,000,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

17 スワンカフェ&ベーカリー新潟店（新潟県新潟市中央区）



- 製造パンの訪問販売・配達用軽ワゴン車
購入資金
- 助成金：1,000,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

18 ラグーン（北新潟県新潟市西区）



- 6次産業化に向け厨房設備機器購入、改修工事、
商品デザイン等に係る資金
- 助成金：5,000,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

19 野坂の郷（福井県敦賀市）



- 洗濯機・乾燥機の購入
- 助成金：4,000,000円

助成先

20 つみきハウス (福井県小浜市)

助成対象事業の内容および助成額

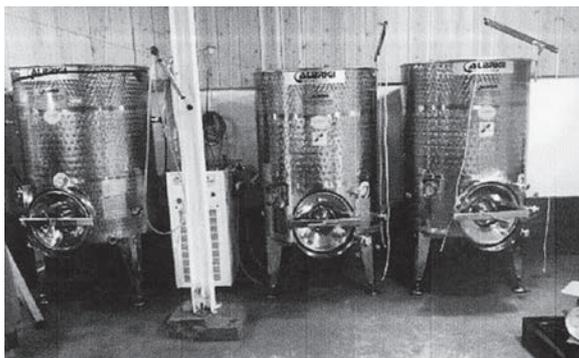


■新商品開発、製造のベーカリーオーブン等購入資金
■助成金: 2,800,000円

助成先

21 森の生活 (岐阜県恵那市)

助成対象事業の内容および助成額



■温度管理可能な発酵・熟成用ステンレスタンクの購入資金 ■助成金: 2,640,000円

助成先

22 みのり (静岡県浜松市天竜区)

助成対象事業の内容および助成額



■ロボット草刈機の購入資金
■助成金: 680,000円

助成先

23 サポートセンターあいぷろ (三重県四日市市)

助成対象事業の内容および助成額



■ぶどう栽培用の垣根と農機具の購入資金
■助成金: 3,800,000円

助成先

24 障がい者複合施設いそしまカーム (大阪府枚方市)

助成対象事業の内容および助成額

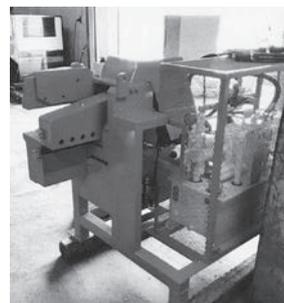
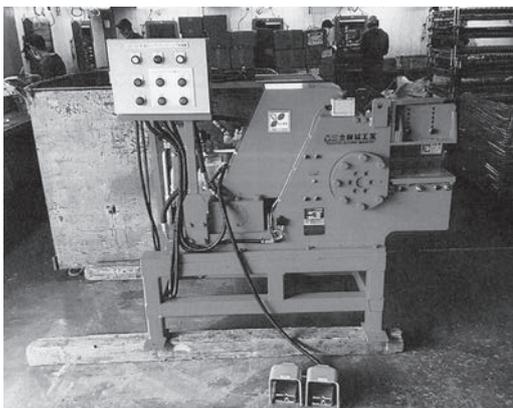


■運搬用の軽トラック購入資金
■助成金: 1,290,000円

助成先

25 ワークワーク (大阪府東大阪市)

助成対象事業の内容および助成額



■アリゲーターシャーリング(挟み式切断機)
油圧式HAS-300型購入資金
■助成金: 3,600,000円

助成先

26 夢楽人 (大阪府泉南市)

助成対象事業の内容および助成額



■運搬車 (1.3t) パネルバンの購入資金
■助成金 : 4,500,000円

助成先

27 なかよし作業所 (和歌山県日高郡みなべ町)

助成対象事業の内容および助成額

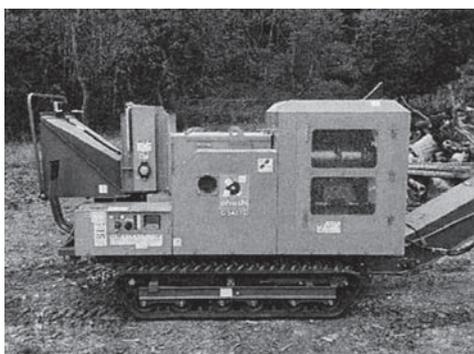


■円型振動ふるい機購入資金 ■助成金 : 1,960,000円

助成先

28 MUKA (福岡県糸島市志)

助成対象事業の内容および助成額



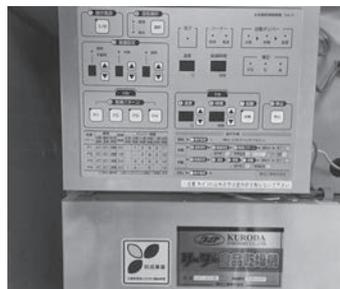
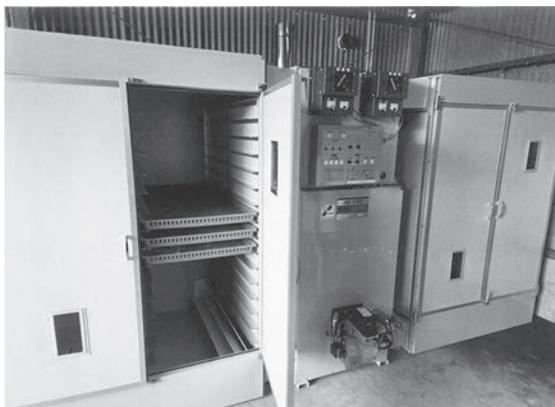
■剪定残滓チップ、おが粉化用の樹木粉碎機購入資金 ■助成金 : 5,000,000円

助成先

29

第二城南学園就労継続支援B型事業所（熊本県熊本市南区）

助成対象事業の内容および助成額



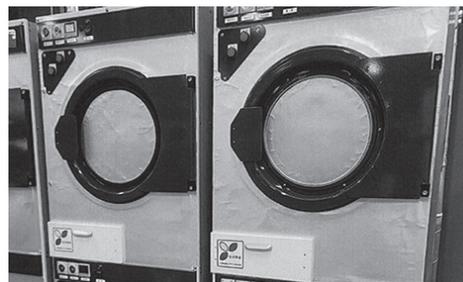
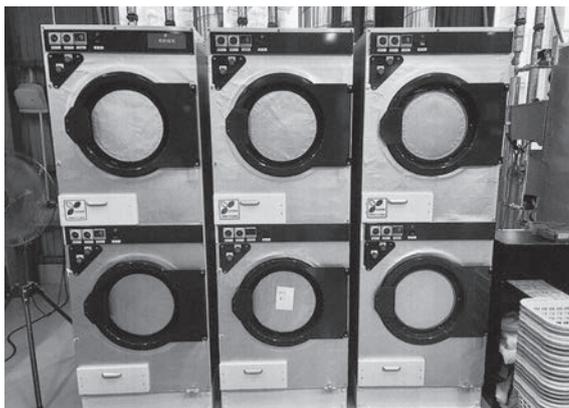
- 食品乾燥機購入資金
- 助成金：1,600,000円

助成先

30

ロイヤルウォッシュ（大分県豊後大野市）

助成対象事業の内容および助成額



- 私物洗濯代行サービス事業増に向け
2段式乾燥機の購入資金
- 助成金：3,680,000円

助成先

31

CBSリネンサービス年見事業所（宮崎県都城市）

助成対象事業の内容および助成額



- 業務用水洗機・乾燥機の増設資金
- 助成金：4,950,000円

助成先

32

すまいる作業所 (宮崎県延岡市)

助成対象事業の内容および助成額



■ゴミ圧縮機購入のための資金
■助成金: 500,000円

助成先

33

スマイル (沖縄県国頭郡本部町)

助成対象事業の内容および助成額



■セメントレス舗装製品の加工機械配備資金 ■助成金: 3,660,000円

2. 障がい者福祉助成金 実施一覧(30件/2,098万円)

単位(万円)

	所在地	福祉事業所・団体名	助成対象	申請区分	実施金額
1	北海道苫小牧市	特定非営利活動法人テレサの丘	「スペシャルニーズを持つ子どもたちとご家族の皆様のための余暇」事業	文化活動	90
2	北海道札幌市中央区	特定非営利活動法人さっされん 元気ショップ	元気ショップ電子カタログ制作	出版	100
3	宮城県仙台市若林区	特定非営利活動法人 ワンダーアート	アートによる難病患者と家族の療育支援	文化活動	100
4	茨城県つくば市	特定非営利活動法人ワールド・ ヒーロープロジェクト	「ダウン症児者に向けた忍者&ヒーローによるショーと運動教育エクササイズイベント」実施、三都市巡業事業	文化活動	100
5	茨城県つくば市	一般社団法人日本意思決定支援 ネットワーク	「意思決定支援ツールトークキングマツ実践事例集」 出版事業	出版	100
6	埼玉県鴻巣市	こころのカフェの会	生きづらさを抱え、ひきこもりがちな当事者と家族の 学びと交流	講演会	27
7	千葉県浦安市	一般社団法人浦安市スポーツ協会	チャレンジド・スポーツ教室「すべての障がい児・者に すべてのスポーツ体験を」	スポーツ活動	65
8	神奈川県横浜市 神奈川区	NPO法人BLACKSOX	チャレンジテニス！2024-25	スポーツ活動	100
9	東京都豊島区	社会福祉法人豊心会	劇団であとるみのり第28回公演の実施	文化活動	65
10	東京都多摩市	特定非営利活動法人縁	「リカバリーカレッジ多摩」事業	講演会	57
11	東京都国立市	NPO法人 ワンステップかたつむり国立	みんな一緒にステージヘソシヤル・インクルージョン の公演活動	文化活動	50
12	東京都町田市	ブラインドITサポート町田	視覚障害者のスマートフォン教室による生活の質の 向上	ボランティア 活動	100
13	東京都日野市	日野坂CANPAS	「毎日の食事を楽しくおいしく。摂食嚥下障害を持つ 子どものための家族料理教室の開催」事業	文化活動	100
14	東京都葛飾区	特定非営利活動法人風の子会	重度障がい者の豊かな地域生活を目指す 余暇支援小集団活動	ボランティア 活動	50
15	新潟県燕市	ロンディーネの杜	重症心身障がい児、医療的ケア児のための スヌーズレンルーム整備事業	スポーツ活動	100
16	富山県富山市	特定非営利活動法人ひまわり	ひまわり「あおぞらフェスティバル ～地域みんなで楽しもう！～」	文化活動	70
17	滋賀県草津市	Kids Loco Project	Kids Loco Project International Meeting 2024	講演会	50
18	大阪府大阪市中央区	大阪障害者雇用支援ネットワーク	支援を要する学生のためのインターンシップ事業	ボランティア 活動	100
19	大阪府河内長野市	ゆっくりいっぽ仲間会	「施設研修プログラム」	ボランティア 活動	12
20	大阪府堺市北区	一般社団法人ことね	触法障がい者の地域生活定着を促進する講演会事業	講演会	42
21	兵庫県神戸市東灘区	特定非営利活動法人ピュアコスモ	「発達障がい児のための感覚運動教室」運営事業	スポーツ活動	55
22	兵庫県神戸市中央区	兵庫県肢体不自由児者 父母の会 連合会	仮称：「ケア・イノベーション2024： 兵庫県ノーリフティングプロジェクト」	講演会	100
23	兵庫県神戸市北区	特定非営利活動法人幸運鳥	幸運鳥おしゃべり倶楽部	ボランティア 活動	6
24	島根県出雲市	夢の森フリースクール	映画上映・講習会 「食から考える子どもと地球の明るい未来」	講演会	100
25	岡山県総社市	多機能型事業所LaLa	映画館を貸し切って行う重症心身障害児、 医療的ケア児とその家族を対象とした 「家族で楽しむ映画鑑賞会」開催事業	文化活動	53
26	広島県広島市西区	(一社)舞台芸術制作室無色透明	おきらく劇場ピロシマ演劇クラブ ～人と人との関係性を育むコミュニケーションWS～	文化活動	39
27	福岡県 北九州市小倉南区	WinC構想運営委員会	「『ともに暮らす街』の軌跡をのこす」オフィシャルブック 出版事業	出版	100
28	福岡県福岡市博多区	一般社団法人言葉のかけはし	～聞こえのフォローが当たり前の社会へ～ 「アニメで知ろう！難聴講座」	講演会	82
29	宮崎県都城市	都城にここクラブ	高齢者・障害児者の心をいやすポケットオルゴールの 製作と寄贈活動	ボランティア 活動	35
30	鹿児島県鹿児島市	NPO法人コンサルサポート	作文が書けるようになる寺小屋	ボランティア 活動	50

助成先

助成対象事業の内容および助成額

文化活動

1

特定非営利活動法人
テレサの丘

北海道苫小牧市



■「スペシャルニーズを持つ子どもたちとそこそご家族の皆様のための余暇」事業
■助成金：900,000円

出版

2

特定非営利活動法人
さっされん元気ショップ

北海道札幌市中央区



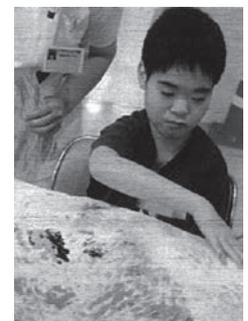
■元気ショップ電子カタログ制作
■助成金：1,000,000円

文化活動

3

特定非営利活動法人
ワンダーアート

宮城県仙台市若林区



■アートによる難病患者と家族の療育支援 ■助成金：1,000,000円

文化活動

4

特定非営利活動法人
ワールド・ヒーロー・プロジェクト

茨城県つくば市



■「ダウン症児者に向けた忍者&ヒーローによるショーと運動教育エクササイズイベント」実施、三都市巡業事業
■助成金：1,000,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

出版

5

一般社団法人日本意思
決定支援ネットワーク
茨城県つくば市



■「意思決定支援ツールトークキングマット実践事例集」
出版事業
■助成金：1,000,000円

講演会

6

こころのカフェの会
埼玉県鴻巣市



■生きづらさを抱え、ひきこもりがちな当事者と
家族の学びと交流
■助成金：270,000円

スポーツ活動

7

一般社団法人
浦安市スポーツ協会
千葉県浦安市



■チャレンジド・スポーツ教室
「すべての障がい児・者にすべてのスポーツ体験を」
■助成金：650,000円

スポーツ活動

8

NPO法人
BLACKSOX
神奈川県横浜市神奈川区



■チャレンジテニス！
2024-25
■助成金：1,000,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

文化活動

9

社会福祉法人豊芯会
東京都豊島区



■劇団てあとるみのり
第28回公演の実施
■助成金：650,000円

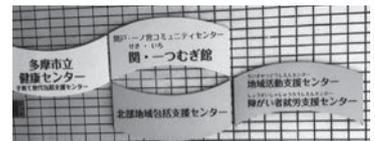
講演会

10

特定非営利活動法人縁
東京都多摩市



■「リカバリーカレッジ多摩」事業
■助成金：570,000円



文化活動

11

NPO法人ワンステップ
かたつむり国立
東京都国立市



■みんな一緒にステージへ
ソーシャル・インクルー
ジョンの公演活動
■助成金：500,000円

ボランティア活動

12

ブラインドITサポート
町田
東京都町田市



■視覚障害者のスマートフォン教室による
生活の質の向上
■助成金：1,000,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

文化活動

13

日野坂CANPAS

東京都日野市



■「毎日の食事を楽しくおいしく。摂食嚥下障害を持つ子どものための家族料理教室の開催」事業
 ■助成金：1,000,000円

ボランティア活動

14

特定非営利活動法人
風の子会

東京都葛飾区



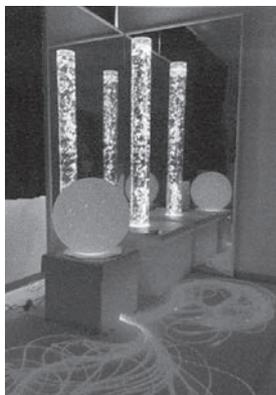
■重度障がい者の豊かな地域生活を目指す
 余暇支援小集団活動
 ■助成金：500,000円

スポーツ活動

15

ロンディーネの杜

新潟県燕市



■重症心身障がい児、医療的ケア児のための
 スヌーズレンルーム整備事業
 ■助成金：1,000,000円

文化活動

16

特定非営利活動法人
ひまわり

富山県富山市



■ひまわり「あおぞらフェスティバル
 ～地域みんなで楽しもう！～」
 ■助成金：700,000円

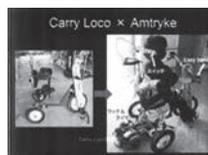
助成先

助成対象事業の内容および助成額

講演会

17

Kids Loco Project
滋賀県草津市

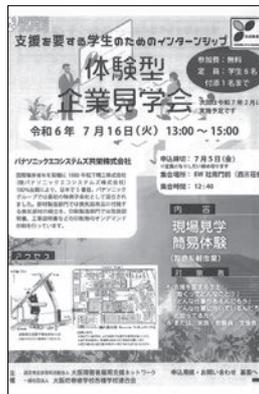


■Kids Loco Project
International Meeting
2024
■助成金：500,000円

ボランティア活動

18

大阪障害者雇用支援
ネットワーク
大阪府大阪市中央区



■支援を要する学生のための
インターンシップ事業
■助成金：1,000,000円

ボランティア活動

19

ゆっくりいっぽ仲間の会
大阪府河内長野市

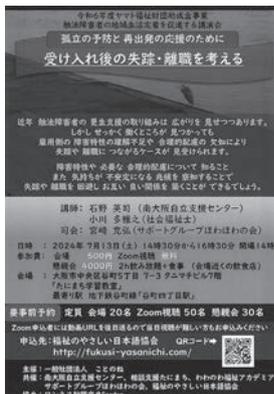


■「施設研修プログラム」
■助成金：120,000円

講演会

20

一般社団法人ことのね
大阪府堺市北区



■触法障がい者の地域
生活定着を促進する
講演会事業
■助成金：420,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

スポーツ活動

21

特定非営利活動法人
ピュアコスモ

兵庫県神戸市東灘区



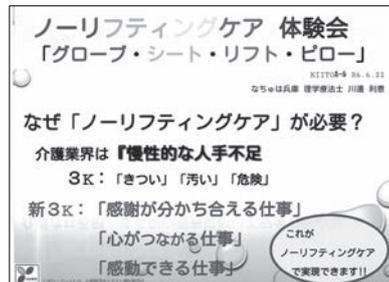
■「発達障がい児のための
感覚運動教室」運営
事業
■助成金：550,000円

講演会

22

兵庫県肢体不自由児者
父母の会連合会

兵庫県神戸市中央区



■仮称：ケア・イノベーション2024：
兵庫県ノーリフティングプロジェクト
■助成金：1,000,000円

ボランティア活動

23

特定非営利活動法人
幸運鳥

兵庫県神戸市北区



■幸運鳥おしゃべり倶楽部
■助成金：60,000円

講演会

24

夢の森フリースクール

鳥根県出雲市



■映画上映・講習会
「食から考える子どもと
地球の明るい未来」
■助成金：1,000,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

文化活動

25

多機能型事業所LaLa
岡山県総社市



■「映画館を貸し切って行う重症心身障害児、医療的ケア児とその家族を対象とした「家族で楽しむ映画鑑賞会」開催事業
■助成金：530,000円

文化活動

26

(一社)舞台芸術制作室
無色透明
広島県広島市西区



■おきらく劇場ピロシマ演劇クラブ
～人と人との関係性を育むコミュニケーションWS～
■助成金：390,000円

出版

27

WinC構想運営委員会
福岡県北九州市小倉南区



■「『ともに暮らす街』の軌跡をのこす」
オフィシャルブック出版事業
■助成金：1,000,000円

講演会

28

一般社団法人
言葉のかけはし
福岡県福岡市博多区



■～聞こえのフォローが当たり前の社会へ～「アニメで知ろう！難聴講座」
■助成金：820,000円

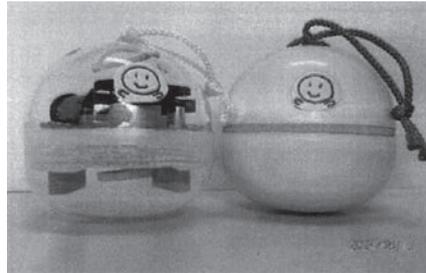
助成先

助成対象事業の内容および助成額

ボランティア活動

29

都城にこにこクラブ
宮崎県都城市

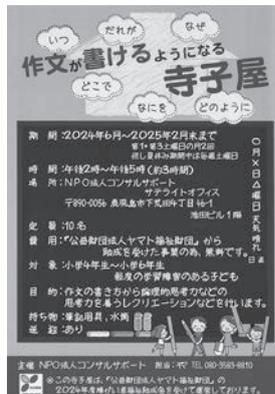


■高齢者・障害児者の心をいやす
ポケットオルゴールの製作と寄贈活動
■助成金：350,000円

ボランティア活動

30

NPO法人
コンサルサポート
鹿児島県鹿児島市



■作文が書けるようになる寺小屋
■助成金：50,000円

(公2) 研修・育成事業

2024年度 障がい者の働く場 パワーアップフォーラム実施報告

▶ I 実施報告

2024年度の障がい者の働く場パワーアップフォーラムは、東京会場と大阪会場の2ヵ所で開催を実施しました。テーマは、「人は自立して生活することで幸せを感じられる」。さらに2024年度テーマとして『いま改めて「働く意味」を問う』を掲げました。

障がいのある方々を取り巻く社会情勢が大きく変化する中、彼らの「働く意味」について問い直すとともに、これからの障がい者福祉や共生社会のあり方について、有識者・小倉昌男賞受賞者の講演、実践報告、シンポジウムを展開し、会場のみなさんとともに考えました。

▶ II プログラム内容

2024年度テーマ

いま改めて「働く意味」を問う

東京会場

日時：2024年7月5日(金) / 会場：東京都立産業貿易センター浜松町館

10:00	開会	主催者あいさつ
10:05	本日のプログラムのご案内	
10:10	基調講演	「働いて暮らす」を実現する 埼玉県立大学名誉教授 朝日雅也氏
11:00	時流講座	障がいのある人の今をどう読むか ～国の内外の関連動向の押さえどころと私たちに問われること～ NPO法人日本障害者協議会代表 藤井克徳氏
11:40	休憩(60分)	
12:40	小倉昌男賞受賞者講演	越境する福祉 社会福祉法人福祉楽団 理事長 飯田大輔氏
13:20	実践報告①	東京都認証ソーシャルファーム 3年間の取り組み 有限会社まるみ 取締役社長 三嶋岐子氏
13:50	実践報告②	「この街でおもしろいことしよ! ほんで繋がろう!」が好きな人 ～「福」と「農」でつながっちゃう 共感♡のコミュニティ～ NPO法人縁活 常務理事 杉田健一氏
14:20	休憩	
14:35	シンポジウム	いま改めて「働く意味」を問う シンポジスト : 朝日雅也氏、飯田大輔氏、三嶋岐子氏、杉田健一氏、当事者2名 コーディネータ: 藤井克徳氏
10:15	閉会	
16:20	交流会	登壇者と直接対話をお楽しみください
17:00	終了	

2024年度テーマ

いま改めて「働く意味」を問う

大阪会場

日時：2024年8月22日(木) / 会場：マイドームおおさか

10:00	開 会	主催者あいさつ
10:05	本日のプログラムのご案内	
10:10	基調講演	障害者支援と地域共生について 日本社会事業大学専門職大学院客員教授 蒲原基道氏
11:00	時流講座	障がいのある人の今をどう読むか ～国の内外の関連動向の押さえどころと私たちに問われること～ NPO法人日本障害者協議会代表 藤井克徳氏
11:40	休憩(60分)	
12:40	小倉昌男賞受賞者講演	働く中で喜びを — オリーブ40年の歩みから — 社会福祉法人オリーブの樹 理事長 加藤裕二氏
13:20	実践報告①	東京都認証ソーシャルファーム 3年間の取り組み 有限会社まるみ 取締役社長 三鴨岐子氏
13:50	実践報告②	「この街でおもしろいことしよ! ほんで繋がろう!」が好きな人 ～「福」と「農」でつながっちゃう 共感♡のコミュニティ～ NPO法人縁活 常務理事 杉田健一氏
14:20	休 憩	
14:35	シンポジウム	いま改めて「働く意味」を問う シンポジスト：蒲原基道氏、加藤裕二氏、三鴨岐子氏、杉田健一氏、当事者2名 コーディネータ：藤井克徳氏
10:15	閉 会	
16:20	交流会	登壇者と直接対話をお楽しみください
17:00	終 了	



▶ 東京会場

● 日 時：2024年7月5日

● 会 場：東京都立産業貿易センター浜松町館

7月5日の東京会場には114名の方が訪れ、会場の奥まで参加者で一杯に。山内理事長は「酷暑のなか多くの方がわざわざ足を運んでいただけるのか不安でしたが、みなさんの熱意に心が震えています」と挨拶しました。

基調講演は、埼玉県立大学名誉教授の朝日雅也さんです。「私は労働と福祉の橋渡し役として、常に自ら問いかけているのは、制度に合わせた働き方を障がいのある方に強いてはいないか、障がいの特性を生かせる環境を本当に用意できているかです。“ともに働き合う”という意識を福祉支援者や雇用する者が理解しなければ、ディーセントワークやインクルーシブな働き方、社会も実現できません」と講演しました。

時流講座では(NPO)日本障害者協議会代表の藤井克徳さんが、優生保護法や精神障がい分野での虐待、また障害者基本法の改正や障害者雇用促進に関する法律についても説明。「刻々と変わる状況を理解するためにアンテナをピカピカに磨き続け、全体像をつかんでください」と話しました。

小倉昌男賞受賞者講演は、(社福)福祉楽団の理事長飯田大輔さんが、ご自身の各事業所での利用者さんの仕事ぶりとその支援方法を紹介。さらに、障がいのある子どもたちが犯罪に巻き込まれそうになっている実情に触れ「一つでも多くの解決モデルを作り、発信できるようにみなさんの地域でも取り組んでほしい」と呼びかけました。

実践報告では、最初に(有)まるみの取締役社長三嶋岐子さんが登壇。「東京都認証のソーシャルファームとして3年間運営し気づいたのは、障がいのある人もない人も、互いに役に立ち合って会社も社会も成り立っているということ。支えられている人が、次は支える人になれる、そんな関係を築いていきます」と報告しました。続いて(NPO)縁活の常務理事 杉田健一さんが「子どももお年寄りも若い人も、障がいのある人も、みんなが笑って働き暮らせる街づくり、それが共生やと思います」と報告。農業を柱に自ら体験した失敗や成功エピソードを通して「遊び心も入れて地域のみながつながれば、もっとおもしろいことができる」と伝えました。

当事者の声では、(社福)きょうされん リサイクル洗びんセンター 渡辺正人さんと(社福)武蔵野千川福祉会 佐藤隆憲さんが自分の仕事内容と給料をもらうようになり生活がどう変化したかなどを語ってくれました。



朝日雅也氏



飯田大輔氏



三嶋岐子氏



杉田健一氏



当事者の佐藤隆憲さん(左)と渡辺正人さん(右)

▶ 大阪会場

- 日 時：2024年8月22日
- 会 場：マイドームおおさか

8月22日、125名の方が大阪会場に来場。山内理事長は「障がいのある方と福祉関係者を取り巻く環境は急激に変化しています。いま改めて働く意味を問いながら、自分たちになにができるかを学んでいきましょう」と挨拶しました。

基調講演は、日本社会事業大学専門職大学院客員教授の蒲原基道さん。「私はかつて厚生労働省で障がい者福祉に長く携わっていました。そこで痛感したのは、障がいのある方が地域で働き、自立するには、働くこと以外にも医療、住まいなどのさまざまなサポートが必要だということです。この実現には障がいのある方や生活困窮者などだれもが共生できる地域社会を作らなければなりません。地域包括ケアという視点から、福祉事業所になにができるのかを考え、行動に移してください」と伝えました。

時流講座は、東京会場でも講演いただいた（NPO）日本障害者協議会代表の藤井克徳さんが、障がいのある方を取り巻く国内外の動向を解説。「法改正も含め全体をきちんと捉えていくことが必要です。それがわかると就労の問題点もより明確になって来ます」と説明しました。

小倉昌男賞受賞者講演は、（社福）オリーブの樹 理事長の加藤裕二さんが、千葉県でクッキーの製造販売を事業の柱に利用者さんの仕事の拡大と給料増額を達成してきた40年間の歩みを振り返りました。「私はアイスや弁当製造などいろいろな事業に挑み、失敗も経験して来ましたが、目標を見失ったことはありません。みなさんの事業所でも先人たちのモデルを参考にしていけば、生産の核になる仕事がきっと見つかるはずですよ」と、来場者に勇気を与えてくれました。

実践報告は東京会場と同じく（有）まるみの三嶋岐子さんと（NPO）縁活の杉田健一さんが行いました。三嶋さんはPCでのデザイン編集関連、杉田さんは自然栽培も取り入れた農業と、事業はまったく異なります。しかし、お二人が経験から得た教訓は同じです。「大切なのは、職員の声にしっかりと耳を傾け、コミュニケーションを取ること。互いの考え方を理解し合い、それぞれが自分の役割を認識して力を合わせていけるようにしていきましょう」と伝えました。

当事者の声では、（社福）さつき福祉会 グーチョキパン屋さんの大江晴樹さんと（社福）ふたかみ福祉会 はびきの園三好優太郎さんが日々の仕事への思いなどを語りました。



蒲原基道氏



加藤裕二氏



藤井克徳氏(左)と当事者の大江晴樹さん(中)、三好優太郎さん



シンポジウム

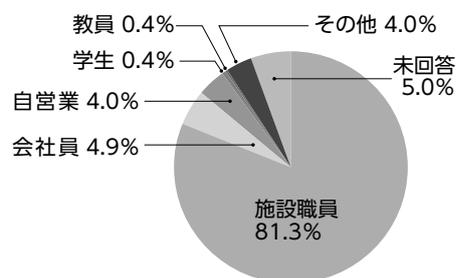
▶ Ⅲ 実施日・場所・人数

開催日	開催地	会場	参加人数
7月 5日	東京	東京都立産業貿易センター浜松町館	114名
8月 22日	大阪	マイドームおおさか	125名
			239名

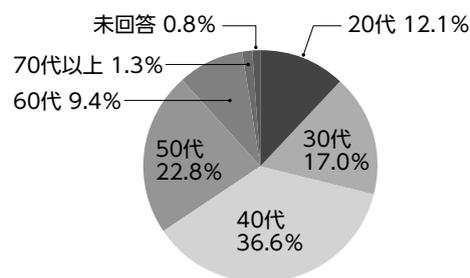
▶ Ⅳ 2024年度 障がい者の働く場パワーアップフォーラム 参加者の傾向

※アンケート回答者 224名

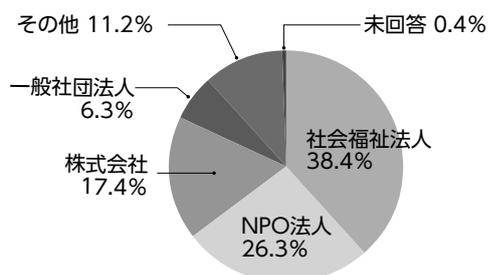
職業



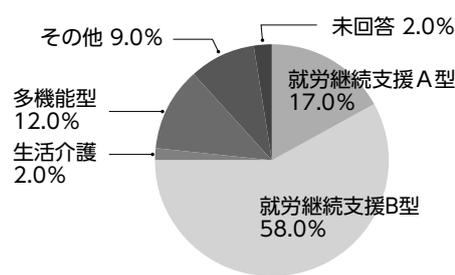
年齢



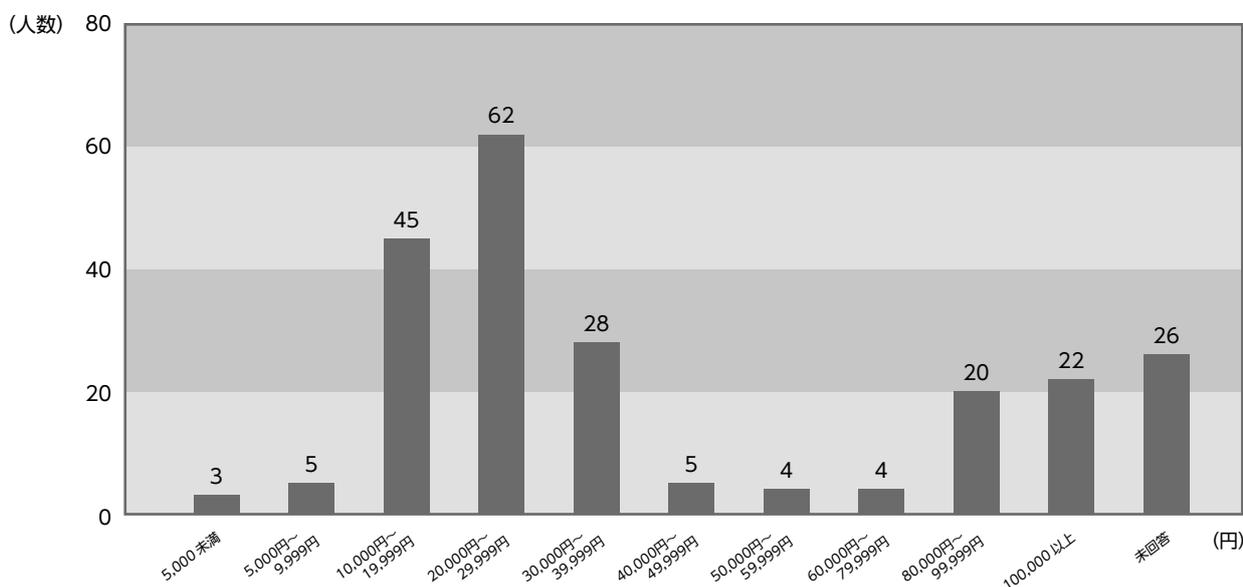
所属



事業区分



参加施設の平均給料の分布



2024年度 「実践塾」実施報告

実践塾とは

小倉昌男賞受賞者や、有識者を講師とし、全国の施設運営者・職員を対象に、利用者さんの給料増額を目的に、事業の見直しや事業の開拓、拡大や技術などを学ぶ研修会です。

2024年度は、農福連携実践塾（2020年度からスタート）の第2期ぶどう栽培塾とたまねぎ栽培塾を実施。「販路拡大研究会（2023年度からスタート）」は、広島県の障がい者施設が実行委員となってマルシェを開催する「第2回ヒロシマルクト」、お菓子を製造する施設が参加して、ノウハウや情報を共有し、工賃向上をめざす「お菓子の販路拡大研究会」を実施しました。また、夢へのかけ橋実践塾・新堂塾で学んだ1～4期までの塾生の参加による、新堂塾OBOGフォローアップ研修会を実施しました。

2024年度「農福連携実践塾」実施報告

▶ I 農福連携実践塾とは

福祉・農業・ブランディングのエキスパートを指導者に迎え、農業を事業として利用者へ給料を支払い、きちんと運営して行くには具体的にどうしたら良いかを実践的に学ぶ「農福連携実践塾」を開講しました。

2020年9月から2023年3月まで（コロナ禍の影響で当初予定から期間を延長）、全国から12施設の塾生が参加し、農業を福祉施設の事業の柱として利用者さんの仕事の拡大、給料増額を目指してきました。2023年度から、「ぶどう」と「たまねぎ」の栽培品目に絞って1年間、栽培技術を実践的に学び、作業内容や事業運営の仕組みについても情報共有する「ぶどう栽培塾」、「たまねぎ栽培塾」を実施。2期目となる2024年度は1期生の施設を見学しながら、事業所の取り組みや栽培のノウハウを学びました。

▶ II 研修内容

「ぶどう栽培塾」、「たまねぎ栽培塾」それぞれで研修会、見学会、塾生施設の視察などを開催し、一人ひとりの抱える問題を具体的に解決できる取り組みを目指します。また、塾生間での情報交換や事業の連携も行える機会を提供し、全員が給料増額の目標達成に繋がる効果も図っていきます。

- 農業で就労、雇用して給料向上を目標とし、1泊2日の宿泊研修を年3～4回開催
- 栽培や販売など農業に関する取り組み方や改善について、事業プランを作成
- 先行施設の紹介や現地見学会、グループディスカッションを行いながら、PDCAサイクルをかけて成果を出します



●統括塾長

(一社)空 代表理事 熊田芳江氏

精神保健福祉士、社会福祉士。2004年「こころん」設立。安心・安全な農作物を生産しながら養鶏場を経営。また、地元企業と6次産業化を目指す新商品の開発、地元の野菜や加工品を直売するカフェ「こころや」の運営など、農家・地域企業・福祉が連携できる新事業を創出。2021年(一社)空を設立、代表理事。第14回ヤマト福祉財団 小倉昌男賞受賞(2013年度)。2015年10月より夢へのかけ橋実践塾熊田塾塾長、2020年9月より農福連携実践塾塾長。



●ぶどう栽培塾塾長

(NPO)ピアファーム 理事長 林 博文氏

2008年、農業で工賃給与向上を目指すことを事業目標にピアファームを設立。2011年にNPO法人として全国数少ない認定農業者になる。第16回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞(2015年度)。



●たまねぎ栽培塾塾長

(社福)ゆずりは会 菜の花 管理者 小淵久徳氏

1974年群馬県生まれ。東北学院大学経済学部を卒業後地元のホテル、農協勤務を経て、2011年(社福)ゆずりは会入職。ゆずりは会「ゆずりは」の就労移行支援部長等を経て、2015年菜の花(就労継続B型)で現職。2014年ヤマト福祉財団「夢のかけ橋実践塾」第1期熊田塾入塾。2020年第2期熊田塾に参加。農林水産省認定農福連携技術支援者。農福連携特例子会社連絡会オブザーバー。ノウフクJAS認証検査員。

Ⅲ. スケジュール

	ぶどう栽培塾	たまねぎ栽培塾
2024年1月		
2月	第1回ぶどう栽培塾 (2024年2月23・24日) 開催場所: (NPO)ピアファーム ・ぶどうハウス見学 ・体験研修 (剪定、主枝の伸ばし方他) ・講義 (工賃向上をめざしたぶどう栽培の取り組み ~ピアファームの事例より 栽培から販売まで)	塾長視察 (2024年2月29日・3月1・2日) ・チームビレッジ視察 ・楽ワーク福祉作業所視察 ・ほのぼの視察
3月		
4月	第2回ぶどう栽培塾 (2024年4月24・25日) 開催場所: (NPO)ディーセントファームかしわら ・ディーセントファーム見学 ・講話 (ディーセントファームの取り組み) ・講義 (農福連携で我々がめざすこと、助成金について)	
5月	第3回ぶどう栽培塾 (2024年5月16・17日) 開催場所: (社福)ひろせ福祉会 ・講話 (ひろせ福祉会の取り組み) ・講義および栽培実習 (新鞘管理・摘芯作業) ・ひろせ福祉会施設見学	
6月	第4回ぶどう栽培塾 (2024年6月20・21日) 開催場所: (NPO)縁活 おもや ・おもや施設見学 ・栽培実習 (摘粒作業) ・講話 (おもやの取り組み) ・講話 (菜の花の取り組み)	第1回たまねぎ栽培塾 (2024年6月7・8日) 開催場所: (社福)ゆずりは会 菜の花 ・ゆずりは会、菜の花他事業所を見学 ・栽培実習 (たまねぎ収穫) ・講義 (たまねぎの栽培体系)
7月		
8月		
9月	第5回ぶどう栽培塾 (2024年9月12・13日) 開催場所: (NPO)ピアファーム ・ぶどう・梨収穫体験 ・第1期生成果報告 ・ぶどう栽培塾研修会ふりかえり	第2回たまねぎ栽培塾 (2023年9月20・21日) 開催場所: (社福)無門福祉会 ・講話 (無門福祉会の取り組み、 自然栽培パーティについて) ・第1期生成果報告会 ・無門福祉会施設見学 ・栽培実習 (太陽熱マルチを剥がす、播種)
10月		
11月		第3回たまねぎ栽培塾 (2024年11月15・16日) 開催場所: 音羽倶楽部、(社福)ゆずりは会 菜の花 ・講義 (農業で工賃向上) ・第2期生成果報告 ・特別講座 (カネコ種苗様) ・栽培実習 (苗の定植ほか)
12月		
2025年1月		
2月		
3月		

▶ ぶどう栽培塾

ぶどう栽培塾：8施設 (2024年3月現在)

法人名	事業所名	事業所形態	事業内容
(株) エール	就労継続支援A型事業所にじのいろ	就労継続支援A型	ハウス内での根域制限栽培、シャインマスカット3年目
(社福) 社会福祉法人大洋会	せせらぎ	就労継続支援B型	いちご観光農園、トウモロコシ、軍手・椿油製造ほか
(NPO) ウッドピアはなわ	ウッドピアはなわ	就労継続支援B型	造花、施設外就労、内職、野菜
(一社) 想	就労継続支援B型事業所カンタービレ	就労継続支援B型	たまねぎ・なす・さつまいも、委託事業
(NPO) ピアファーム	ピアファーム	就労継続支援B型	果樹・野菜の製造販売、加工品、観光農園
(NPO) 杜の家	杜の家ファーム	就労継続支援A型	いちご栽培ほか、ぶどうはこれから
(株) 誠晃	みなよしA型・リリーふB型	就労継続支援A・B型	米・シイタケ・みかん・サツマイモなど
(社福) ひろせ福祉会	工房ひろせ	就労継続支援B型	アスパラガス栽培

第1回ぶどう栽培塾

- 日時：2024年2月23・24日
- 場所：(NPO) ピアファーム

ピアファームのぶどう栽培のやり方

第1回目は塾長施設のピアファームで開催。林塾長による「農業で工賃向上をめざしたぶどう栽培の取り組み」をテーマにした講義でスタートしました。観光ぶどう園で7月から10月まで販売できるように企画し、それを軸にして年間のスケジュール、栽培品種等が決められます。ぶどう栽培は高い収益性があり、利用者が参加できる作業が多い。ピアファームの栽培方法・販売、工賃向上のためにどんな実践をしているかなどをお話いただきました。

栽培実習では、ぶどうの剪定のやり方、短鞘管理、芽傷の入れ方などを学びました。



観光ぶどう園を軸に1年が回る



圃場の見学



剪定の仕方を現場で学ぶ



どの枝を落とせば良いか、何度も確認する塾生



第2回ぶどう栽培塾

- 日 時：2024年4月24・25日
- 場 所：(NPO)ディーセントファーム

ディーセントファームかしわら(1期生)の取り組み

第1期塾生の施設である、ディーセントファームかしわら(大阪府柏原市)で開催。植田理事長から事業所の取り組み、1期生の植田佳代さんからぶどう栽培の取り組みについて報告がありました。柏原市は、デラウェアの全国で有名な産地だったところです。現在は耕作放棄地が目立ちますが、駅から近いところに農地を確保し、ハウスの設備を整え(バイオトイレ、車椅子でもは入れるように圃場の段差をなくすなど)、シャインマスカットと巨峰の苗を植えたところです。翌日、できたばかりのハウスと、露地栽培をしているぶどうの圃場を見学しました。



ディーセントファームかしわら・植田理事長の講話



熊田統括塾長の講話
「農福連携で我々がめざすこと」



町の中心地に近い農地を確保



圃場で現状を説明する塾生の植田佳代さん



できたばかりのハウスを見学する塾生



第3回ぶどう栽培塾

- 日 時：2024年5月16・17日
- 場 所：(社福)ひろせ福祉会

(社福)ひろせ福祉会(1期生)の取り組み

福島県伊達市で、卒業の行き場を作る目的で親の会が中心となり設立。三浦理事長から、事業の歴史や今後について講話をいただきました。B型事業所で取り組んでいるのはアスパラガス、えごま、菊芋、ポンせんべい、あんぼ柿、ぶどう、パン製造販売など。ぶどうハウスは30アール。昨年、乾燥して20本以上かかれたので、灌水設備を整備しました。伊達市内では100軒以上のぶどう農家があり、地元で成功している方を真似することも大事だといいます。3年後の収穫をめざしています。栽培実習では、林塾長より、新鞘管理、摘芯作業などを学びました。また、ひろせ福祉会の施設見学では、アスパラの収穫体験も行いました。



三浦理事長の講話



灌水設備を整えたハウス



新鞘の摘芯と副鞘の取り除くを実演



支柱や支線に誘引



アスパラハウスで収穫



第4回ぶどう栽培塾

- 日 時：2024年6月20・21日
- 場 所：(NPO) 縁活 おもや

(NPO)縁活 おもや(1期生)の取り組み

第4回ぶどう栽培塾は(NPO)縁活 おもやで開催しました。施設・圃場(トマト・イチジクハウス他)を見学。その後石部地区(本部から車で20分くらいの場所)にあるぶどうハウスで摘粒の栽培実習を行いました。

翌日は、(NPO)縁活の杉田常務理事よりおもやの事業の取り組み、たまねぎ栽培塾の小淵塾長から菜の花の取り組みについてお話しをいただきました。



栽培実習は摘粒、粒を抜いてぶどうの形に



摘粒を行う塾生 最初はおそろおそろ粒を抜いていましたが、慣れてくると大胆になります



おもやの地域のつながりからぶどう栽培事業が始まりました



(NPO)縁活 杉田常務理事による事業の取り組み



たまねぎ栽培塾の小淵塾長 菜の花の取り組みを講義

第5回ぶどう栽培塾

- 日 時：2024年9月12・13日
- 場 所：(NPO) ピアファーム

1期塾生成果の報告会

最終回ぶどう栽培塾第5回は、1期生と合同で研修を行いました。1日目は、なし園とぶどう園で収穫の栽培実習。2日目は、1期塾生6名の成果発表です。成果発表には山内理事長もオンラインで参加。「実践できる、具体的に役に立つ場を広げたい。なによりも、塾で繋がったネットワークを大事にしていきたい」と塾生にメッセージを送りました。

林塾長は、「工賃を向上させるには、収入に対して原価がどうなるかをみないといけない。基本的な枠組みの中で、経営的なバランスをみながらやっていくことで収益が上がります。ぶどうは販売も加工もしやすいです。わからないことがあればいつでも連絡をください」と塾生へ伝えて、ぶどう栽培塾が終了しました。



最終回は塾長施設のピアファームで



梨の収穫体験



1期生成果報告会には山内理事長もオンラインで参加



1期生・2期生の合同研修会



「いつでも連絡をください」と林ぶどう栽培塾塾長



「支援計画を作るように、事業の計画を作ることが仕事の基本」と熊田統括塾長

▶ たまねぎ栽培塾

第2期たまねぎ栽培塾：12施設（2024年11月現在）

法人名	事業所名	事業所形態	事業内容
(一社)日々木の森	農園カフェ日々木	多機能型	カフェ、観光農園
(NPO)障害者の地域生活を支援する会	サポートスクエアばおばお	就労継続支援B型	養鶏を中心に農業、菓子製造、仕入れ販売
(社福)山福社会	月山福社会	多機能型	短角牛飼育、農業、リサイクル業、トイレトーパー製造
(一社)空	土水空ファーム	自立訓練	ミニトマトほか露地栽培野菜、米、その他
(NPO)たしざん	たしざん福祉作業所	就労継続支援B型	農業とパン製造販売
(NPO)障害者自立支援センター多摩	ワークセンターれすと	就労継続支援B型	軽作業、菓子、カフェ
(社福)恵の園	障害福祉サービス作業所シャローム	就労継続支援B型	りんご、野菜の製造販売。加工品
(社福)くりのみ園	NATURALGARDENくりのみ	多機能型	養鶏、畑・水田、製菓、販売
(NPO)スマイルベリー	NPO法人スマイルベリー	就労継続支援B型	農業、業務委託、トイレ清掃
(株)Purim	あい・ふあ〜む	就労継続支援B型	農業
(社福)くまもと障害者労働センター	エコネットみなまた	就労継続支援B型	廃油からのセッケン、自然栽培農業
(社福)敬心会	自立支援センター太陽の丘	就労継続支援B型	施設外就労、内職、調理、菓子製造

第1回たまねぎ栽培塾

- 日 時：2024年6月7・8日
- 場 所：(社福) ゆずりは会 菜の花

たまねぎの播種から収穫まで 栽培管理を学ぶ

第1回は、塾長施設である(社福)ゆずりは会 菜の花で開催。圃場、ライスセンター、たまねぎ選別場、枝豆選別場他を見学し、利用者さんがやりやすい作業の工夫などを現場で学びました。実習ではたまねぎの収穫からスタート。振動掘取機、ピッカーなどの機械を使った収穫も体験し、機械を使うことでの生産性や工賃に繋がることなども学びました。翌日には、小淵塾長によるたまねぎの栽培管理の作業(播種から次の収穫まで)の講義を行いました。



菜の花の選果場



たまねぎの選別機の作業を見学



振動掘取機でたまねぎを掘る



ピッカーでたまねぎを拾い上げる



手作業で収穫



たまねぎの栽培管理を学ぶ

第2回たまねぎ栽培塾

- 日 時：2024年9月20・21日
- 場 所：(社福) 無門福祉会

1期生成果発表会、 山内理事長も栽培実習に参加

第2回は、たまねぎ栽培塾1期生の成果発表会も兼ね、1期生の事業所である(社福) 無門福祉会で開催しました。磯部事務局長から自然栽培に取り組む無門福祉会の事業について、講話をいただきました。その後は1期生の成果発表です。栽培がうまくいったところも失敗したところもあります。小淵塾長は、「分析・行動のPDCAが重要。やるべき時に作業ができていないのが失敗の原因」と指摘します。翌日は、山内理事長も参加して、たまねぎ播種の栽培実習を行いました。



磯部事務局長による無門福祉会の取り組み



1期生成果発表



播種をする畝の太陽熱マルチを外す



播種をする山内理事長



播種後に寒冷紗をかける



作業が終わって

第3回たまねぎ栽培塾

- 日 時：2024年11月15・16日
- 場 所：音羽倶楽部、
(社福) ゆずりは会 菜の花

農業で稼いで、障がいがあっても 社会に貢献できる事を示す

最終回となる第3回たまねぎ栽培塾は、「農業に特化して工賃向上をめざす」をテーマにぶどう栽培塾の林塾長が講義を行いました。工賃向上のためには設備投資が必要、働く環境づくりや、商品売り切ること」と話します。塾生は播種から苗を作り定植するところまで、利用者さんと歩んだ栽培の苦労などを交え報告しました。また、種苗メーカーのカネコ種苗さんを迎え、栽培についての専門的なお話をいただきました。最後に小淵塾長は「農業で稼いで、障がいがあっても社会に貢献していけることを地域に示していただけたら嬉しい」とメッセージを伝えました。



カネコ種苗さん講義



苗の堀取り



苗の植え付け



機械で苗の植え付け



植え付け後に土をかける



1年間お疲れ様でした

「販路拡大研究会」活動報告

販路拡大研究会とは

障がい者施設でつくられた商品の販路拡大の実証実験・研究や勉強会を行う「販路拡大研究会」を2023年度に発足しました。利用者さんの給料アップを目的とし、販路拡大を通じた事業所の売上向上を目指します。

2024年度は、研究会の活動を2つに分離しました。一つは、広島県内の事業所が出店する大型マルシェ「ヒロシマルクト」の開催。2回目となる2024年度は、スパイラルガーデン大州で開催しました。二つ目は新たに、第10回小倉昌男賞受賞者である中崎ひとみ氏を会長として、「お菓子の販路拡大研究会」を発足しました。メンバーを公募し、44施設から10施設を選出。成果を出している事業所見学と意見交換、お互いがノウハウや情報を共有し、PDCAサイクルをかけ成果を検証する研究会です。2024年度は3回の見学勉強会を実施しました。



● 会長：(社福)共生シンフォニー 理事長 中崎ひとみ氏

1992年から無認可の小規模作業所で働き、1996年にクッキー工房を新築後、利用者全員との雇用契約を結ぶ。2003年に社会福祉法人を取得後、「がんばカンパニー」は菓子工場として、年間1億円以上の売上を継続中。現在もA型事業所として、3ヵ所で60人の利用者給料を支払う就労支援収入を売り上げている。

(NPO) 就労継続支援A型事業所全国協議会副理事長、他役員多数。第10回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞(2009年)

第2回ヒロシマルクト

- 日時：2024年11月30日
- 場所：スパイラルガーデン大州

「つながる」をテーマに19事業所が出店

Hi-roshimarkt (ヒロシマルクト) は、「hirosima (広島)」とドイツ語で市場を意味する「markt (マルクト)」を掛け合わせた造語。「Hi」は利用者さん達がつくる高品質な商品を扱い、ハイスペックな市場を目指すという意味が込められています。

多くの方に来場してもらいたいため、実行委員メンバーが中心となり、事前の宣伝活動やSNSフォロワーの勧誘を精力的に行い、地元のテレビ、ラジオ、雑誌などにも取り上げられました。また、地元企業に1口5,000円の協賛金を募り、48社(79口395,000円)のご協力もいただきました。

当日は実行委員を含む19事業所が出店し、雑貨、Tシャツ、コーヒーやパン、チョコレートなどを対面販売で品質の良さをアピール。1,000人超が来場、全体売上も約82万円と第1回を大幅に上回る結果となったとともに、地域への商品周知にも大きくつながりました。



1週間前にオープンしたばかりのスパイラルガーデン大州で開催

参加施設

多機能型事業所あさひ
B型事業所のあ
ワークサポートひなた
就労支援センターBスマイル
多機能型HAP-B
多機能型事業所LOVEART
ポレポレファクトリー
就労継続支援B型事業所エミリアプラス
社会福祉法人「ゼノ」少年牧場 ゆめサポート・パーク
あおぞら工房
宮領ワークセンター あおぞらばん屋さん

▶ お菓子の販路拡大研究会

参加施設：10施設 (2025年3月現在)

法人名	事業所名	事業所形態	主な事業内容
(株) Akari	就労継続支援A型事業所Akari	就労継続支援A型	パイの製造販売とグループ会社へのパイ卸 (アップルパイなど)。
(社福) 三環舎	あしたば園	就労継続B型・ 自立訓練・ 生活介護多機能型	島とうふ屋のおからクッキー・すもも酒・たんかん酒ゼリー、 奄美の黄金花など観光客をターゲットにしたお菓子の製造販売、他
(社福) くまもと障害者労働センター	くまもと障害者労働センター	就労継続支援B型、 生活介護	菓子製造・販売、カフェ運営、弁当製造・販売 他
(NPO) 南風原障がい者支援センター	福祉事業所はんどinはんど	就労継続支援B型	クッキー製造、リサイクル作業など
(NPO) 手と手	就労支援センター しずく	就労継続支援B型	農業、食品加工、販売他
(社福) 薫徳会	トライアングル	就労継続支援B型、 生活介護の多機能型	クッキー製造販売
(社福) オリーブの樹	オリーブ轟	就労継続支援A・B型 多機能型	菓子製造販売、弁当製造販売、アイスクリーム製造販売、 レストラン運営他
(社福) 眉文会	就労支援事業所 創楽	就労継続支援B型	菓子・パン製造 農業 受託作業
(社福) 袖の木福祉会	YUZUKA	就労継続支援B型	お菓子の製造販売
(NPO) コミュニティワークス	地域作業所hana	就労継続支援B型	製菓・縫製・内職

第1回見学勉強会

- 日 時：2024年10月7日・8日
- 場 所：(社福) 共生シンフォニー、がんばりカンパニー

お菓子の販路拡大研究会は、施設で製造するお菓子の販路を拡大し、売上増、利用者さんの給料アップを目指します。

第1回は中崎座長の施設である(社福) 共生シンフォニーで開催。中崎氏は、毎日1トンのクッキーを製造するがんばりカンパニーの成長の過程を、仕入れ販売のみで2,000万円の売上を出していた時代から、現在の1億5,000万円の売上や施設の規模、利用者人数とあわせながら説明し、まずは数字を把握し、事業計画を立てることがファーストステップだと話しました。研究生は、がんばりカンパニーを見学しながら、利用者さんの動きや導線、設備を写真やメモに取り、持ち帰りました。彼らの新しい気づきや次への行動が成果に繋がることに期待します。



がんばりカンパニーの菓子工場を見学



研究生がそれぞれ製造するお菓子を試食し意見交換

第2回見学勉強会

- 日 時：2025年1月16日～18日
- 場 所：(社福)三環舎 あしたば園

第2回見学勉強会は鹿児島県奄美市の(社福)三環舎あしたば園で開催しました。あしたば園は、島の特産である黒糖を使った「フルーツケーキ黄金花」を製造しています。お菓子製造の見学、中崎会長と見玉研究生による講義で「原価計算と販売金額設定の考え方」「就労支援会計の基本理解」について学びました。また、研究生による「売り上げ目標設定」をテーマに討論を行うなど、盛りだくさんのプログラムで実施しました。

最終日には、奄美群島の素材を活かしたジェラートの製造販売で成果をあげている同じ奄美市の「(株)リーフエッチ就労継続支援B型あまみん」を見学。代表の田中さんから商談会への積極的参加や、ネット販売だけでなく、実際のショップを持つことで信用を得たことなど、販路拡大への苦労や成果などをお話いただきました。



原価計算など基本を学ぶ



見学施設「あしたば」の商品



奄美市の「あまみん」を見学

第3回見学勉強会

- 日 時：2025年2月13日～15日
- 場 所：(社福)オリーブの樹 オリーブ轟

第3回見学勉強会は、消費者の目にとまるパッケージデザインがテーマです。東京ビックサイトで開催された「ギフトショー」に集合し、それぞれブースを回り、研究生各自で包材業者と商談を行いました。

その後、(社福)オリーブの樹のオリーブ轟(千葉県千葉市)に移動し、施設の見学・研修会を実施。中崎座長より、パッケージの工夫や、包材のカスタマイズについて講義を受け、研究生もそれぞれの事例を発表し、全員で共有しました。最終日はデザイン・ブランディングについて講師を招き、事例を元に売上拡大につながる「映える」商品づくり、デザイン・ブランディングについて学びました。



ギフトショーでの見学・商談



オリーブ轟で

夢へのかけ橋
実践塾

新堂塾 OBOGフォローアップ研修会



「セル方式からライン化へ」。生産効率を高めるライン化の実現で給料増額を目指して、2013年にスタートした新堂塾。4期生も卒塾して約2年が経ちます。

「仕事を決め、環境整備、利用者さんの働く力を伸ばす」一つひとつのステップを実践し、成果を積み上げている塾生OBOGへのフォローアップ研修を実施しました。

フォローアップ研修会

● 日 時：2024年7月26・27日

● 場 所：武蔵野公会堂第4会議室(26日)／ヤマト運輸本社ビル(現・銀座ビル)会議室(27日)

夢へのかけ橋実践塾「新堂塾」の1期～4期生まで、オブザーバーを含めて14名が集まり、5年ぶりにフォローアップ研修会を実施しました。1日目は武蔵野千川福社会の事業所を見学。翌日はヤマト運輸本社ビル会議室で、「塾での学びを継続した実践報告」を発表。故新堂氏に代わり、アドバイザーの菅野敦氏(社会福祉法人武蔵野千川福社会理事長)が、一人ひとりにアドバイスを伝えます。

新堂塾の学びは、障がいのある方の生きる力・学ぶ力・暮らすちからを育てていくことを目指しています。働いて、社会の中で暮らしていくために、利用者さんの給料を上げていくことが、支援者の大きな仕事でもあります。

入塾時3,000円だった平均月額工賃が、10年経った今、45,000円に。売上も2,000万円にアップしたという報告、また、入塾時7,000円だった平均月額工賃が4年後には20,000円にアップしたという塾生の報告もありました。新堂塾の学びは着実に成果に繋がっています。



チャレンジャーを見学



5年ぶりの研修会で実績を報告

2024年度新堂塾OBOGフォローアップ研修会 参加施設

法人名	事業所名	事業所形態	事業内容
(社福)ゆたか福祉会	リサイクルみなみ作業所	就労継続B型	ペットボトルの選別、圧縮、梱包作業
(NPO)出愛いの里福祉会	障がい者支援センター出愛いの里	就労継続B型	プラスチックダンボール洗浄、DM加工作業、施設外就労
(社福)一麦会	六星舎(参加時:麦の郷印刷)	就労継続B型	軽作業、施設清掃、除草・剪定・消毒、商品の請負配送等
(NPO)工房はづき	工房はづき	就労継続B型	宛名シール貼り・郵便番号区分け・封入封緘、ペットケア商品製造販売他
(社福)新潟市中央福祉会	ワークセンターひがし	就労継続B型	食品セットアップ、ウエス製造、公園清掃・除草業務、県庁駐車場整理券配布業務
(社福)武蔵野千川福祉会	ワークイン関前、チャレンジャー、武蔵境ワーキングセンター	就労継続B型	DM封入・封緘
(社福)北九州障害者福祉事業協会	とりはた玄海園就労センター	就労継続B型・就労移行・定着支援	ペットフード袋詰め作業他、印刷、簡易作業、清掃作業
(一社)あんずの森	就労継続支援多機能事業所あんずの森	就労継続A型・B型	ペットフード袋詰め関連作業、清掃作業、農業、施設外作業、他受託作業
(社福)五輪会	太陽の郷	就労継続B型	DM封入・封緘、空き缶リサイクル、農作業、惣菜店舗運営
(社福)修光学園	ワークセンター Halle!	就労継続B型	製菓事業、紙器加工業

「自然栽培パーティ」活動報告

2015年に5カ所の障がい者施設を対象に、第15回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者の佐伯康人さんを指導者に迎え、無農薬・無肥料の自然栽培検証プロジェクトとして「水稲栽培チャレンジ」を実施しました。

その後、「無農薬・無肥料」で自然の力を活かした付加価値の高い農産物を育て、売上を伸ばし、利用者さんの給料増額を目指して一般社団法人農福連携自然栽培パーティ全国協議会（自然栽培パーティ）が立ち上がりました。

活動の主人公は、農業に励む障がい者のみなさんで、彼らを「農福師」と呼び、毎年自然栽培アワードとして讃えています。障がい者が『地域につながる』ことが「地域をつなげる」ことになる。5施設からスタートした自然栽培のネットワークは、2024年には139施設（3月末現在、福祉施設・企業・個人）に広がりました。

ヤマト福祉財団は、水稲栽培チャレンジから自然栽培の活動をさまざまな角度から支援しています。

自然栽培パーティ 全国フォーラム2024in鹿児島

● 日 時：2024年11月23日

● 場 所：ライカ南国ホール(鹿児島県)

未来の子どもたちに自然栽培パーティができること

2024年度自然栽培パーティ全国フォーラムは、170名の参加者を集め、収穫を祝うお祭り「新嘗祭」にあわせて11月23日に開催。会場は「祭」をイメージした趣向を凝らし、全国で収穫した野菜を載せた神輿がオープニングに登場しました。

今大会のテーマは「未来の子どもたちに私たちができること。自然栽培パーティの農業は地域をつなぐ!」。挨拶に立った財団の山内理事長は「人間が生きるとは食べていくこと。その根源的なところに自然の大地を踏みしめて生きていくという自然栽培パーティの活動はつながっている」と、同会の活動に期待を寄せました。教育学が専門の汐見稔幸氏の講演をはじめ、全国の事例発表「農自慢」では、農福師が子どもたちにお米作りを教える取り組みや、自然栽培パーティの野菜が学校給食に採用されたことなどが報告されました。

締めくくりは半農半歌手として活動するYaeさんのライブで会場が一体に。心に響くフォーラムとなりました。



自然栽培パーティ塾

2024年5月に北海道、6月に愛知で実施された「自然栽培パーティ塾」。自然栽培に関心を持つ7施設を対象に研修を行っています



「ゆいジョブ! 実行委員会」活動報告

2018年～2021年に実施したパワーアップフォーラム沖縄は、ヤマト福祉財団が他所で開催したパワーアップフォーラムとは異なり、現地の福祉施設関係者などの実行委員主導で行われました。このパワーアップフォーラム沖縄実行委員の分科会活動から誕生したのが「ゆいジョブ! 実行委員会」です。

「働きたいと願う障がいのある方と、雇用したいと考える企業」を結ぶ活動。ゆいジョブ!の名前は、沖縄の方言「ゆいまーる=助け合い」から来ています。ゆいジョブ! 実行委員会は、地域の福祉事業所と就労先企業の紹介情報を互いに自由に閲覧できるゆいジョブ!サイトを立ち上げました。さらに、障がいのある方と企業がリアルで出会うことができるイベント「おしごと発見フェア」も開催。沖縄の障がいのある方の「将来設計」を、企業と地域の方が一体となり応援していくさまざまな活動を展開しています。

おしごと発見フェア2024

- 日 時：2024年9月25日
- 会 場：沖縄コンベンションセンター
(沖縄県宜野湾市)

9月25日、ゆいジョブ! 実行委員会とヤマト福祉財団が主催となり、障がいのある方と企業をつなぐ参加型イベント「おしごと発見フェア2024」を沖縄県宜野湾市のコンベンションセンターで開催しました。なお本フェアは、沖縄県をはじめ多くの団体などの後援^{*1}を得て企画・実現しています。

オープニングセレモニーには、沖縄県知事の玉城デニー氏より「本フェアを通じて一人でも多くの障がいのある方が希望する仕事に出会い、輝ける場所を発見できることを願っています」とビデオメッセージをいただきました。「会って、体験して、相談して」3段階で対応できる総合イベントとして、年々注目を集める本フェア。参加者は回を重ねるたびに増加し、3回目となる今回は、特別支援学校の生徒や障がい者施設の利用者さん、さらに一般の方が集まり昨年より100名も多い約580名になっています。

今回ゆいジョブ! 実行委員が特に力を入れたのは、障がいのある方が「働くとはどんなこと?」「企業で携わる仕事はどんなこと?」を体験的にイメージできるようにすることです。そこでさまざまな企業の仕事を疑似体験できる



「おしごとチャレンジ体験会」^{※2}のスペースを会場の2/3に拡大して展開。これはそのまま雇用につながる狙いより、まず企業や仕事を知っていただくためのものであり、障がいのある方が、働くことに興味を持ち、自身の可能性を発見していただくための入口となる企画です。昨年参加して手応えを得られた企業のなかには、より大掛かりな体験企画を用意するところも。また障がい者雇用の取り組みを始めた新規企業も増え、計14社によるバラエティに富んだ内容となりました。参加者からは「施設で働いているけど一般企業もいいかな」「IT関連の仕事に興味をわいて来た」などの感想があり、実行委員も企業も確かな手応えを得ることができています。

一方、「早く就職したい、就活したい」という方のために用意した「合同説明会」^{※3}には、毎年参加している沖縄ヤマト運輸などに加え、琉球銀行様、沖縄JTB様など新規参加もありより充実。参加企業は「こんなに集まってくれるとは予想していなかった。用意した資料が足りなくなった」とうれしい悲鳴を上げています。さらに「なんでも相談コーナー」も設置し、「自分が働けるのか、働くためにどうしたらいいのかわからない」という方一人ひとりの悩みにもお答えしました。

なお今回は、地元の高校が授業の一環としてボランティアで参加しイベント運営をサポートしていただきました。そんな会場の様子を地元のテレビ局、新聞社などが取材に訪れ、県内外での認知度はより上がって来ています。開催を終えて(株)小梅と諭吉社 朝比奈めぐみさんは実行委員を代表して「体験型のイベントをメインにしなが、マルシェなども含めて展開することが今後の課題です。他の地域にも参考となるように、フロントランナーとして発信し続けることも、私たちのもう一つの役目だと思っています」と来年に向けての抱負を語ってくれました。

※1)後援:

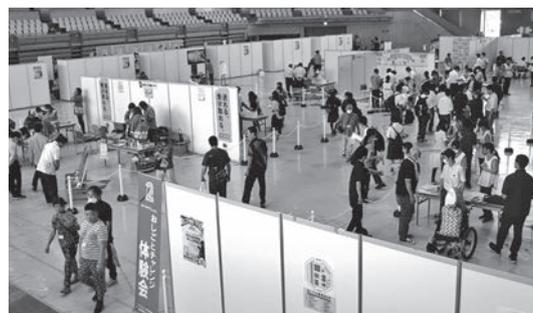
沖縄県 / 沖縄県教育委員会 / 沖縄労働局 / 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構沖縄支部 / 沖縄県中小企業家同友会 / 沖縄経済同友会 / 沖縄県商工会議所連合会 / 一般社団法人沖縄県経営者協会 / 沖縄商工会連合会 / 沖縄タイムス社 / 琉球新報社(順不同)

※2)おしごとチャレンジ体験会出展企業:

沖縄ヤマト運輸(株) / うみりく食品卸センター(株) / (有)たけ事務 / (株)ソルパック / (有)仲松ミート / (株)メガネ1番 / イカリ消毒沖縄(株) / 沖縄ホンダ(株) / 洋服の青山 / オフィスキャリエール / (株)琉新の風 / (株)ビースタイルチャレンジ / (株)ベルシステム24 / (株)アイセック・ジャパン(順不同)

※3)合同企業説明会出展企業:

(有)大宮工機 / 沖縄ヤマト運輸(株) / (株)那覇ミート / 日本トランスオーシャン航空(株) / ウイングアーク1st(株) / 沖縄JTB(株) / 琉球銀行 / (株)ビースタイルチャレンジ / 医療法人おもと会 / サンエー運輸(株) / (株)ソルパック / (株)アイセック・ジャパン(順不同)



(公3) 表彰事業

ヤマト福祉財団小倉昌男賞の贈呈

障がいのある方の仕事づくり、雇用の拡大、労働条件の改善、高い給料の支給、そしてより多くの障がいのある方に働く喜びと生きがいを提供することで自立支援に貢献された個人を、毎年2名選出・表彰するヤマト福祉財団小倉昌男賞。

受賞者には、正賞 両宮 淳氏作のブロンズ像、賞状、副賞 賞金100万円をお贈りしています。



第25回ヤマト福祉財団小倉昌男賞贈呈式

- 日 時：2024年12月5日
- 会 場：日本工業倶楽部

障害者週間の12月5日、第25回ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式を日本工業倶楽部（東京都）で開催しました。受賞者は、(株)カムラック 代表取締役の賀村 研さんと(社福)いなりやま福祉会 常務理事の酒井勇幸さんです。会場には、お二人の関係者と歴代受賞者など約100名をご招待しています。

主催者挨拶で山内理事長は「デジタル時代の需要を見据え、障がいのある方の新たな活躍の場を開拓されている賀村さん。障がいのある方のために60年間、地道に長野県の福祉事業の礎を構築されて来た酒井さん。お二人はともに、障がい者福祉の新たな時代を拓いた先駆者です」と讃えると、会場は大きな拍手で包まれました。

受賞者挨拶で賀村さんは「こんな素晴らしい賞をいただけたのも一緒に頑張ってくれているメンバー、スタッフ、そして協力会社のみなさんのお陰です」とスピーチ。酒井さんも「階段を一步步登るように、みんなで努力してきた結果がこの受賞だと思います」と述べ、それぞれに受賞の喜びをかみしめていました。



賀村 研さん

(株)カムラック (福岡県福岡市)

カムラックの輪を全国の施設、企業に広げたい

東京のソフトウェア会社の企画営業として活躍していた賀村さんは、2009年に奥様の故郷・福岡で子育てをするために地元IT企業に転職。そこで地方ほどIT業界が抱える人材不足が深刻であると知り、高齢者、女性、障がいのある方にアプローチします。しかし福祉施設からは「うちの利用者さんには無理」と断られてしまいました。「だったら自社で就労支援事業をやろうと提案したのですが、稟議が通らない。それなら自分で事業所を開設してしまえ！とカムラックを作ったんです」と賀村さん。

人材を募集するとたくさんの方がやって来ましたが、プログラムやコード作成の知識・技術を持つ人は少数です。そこで企業にマニュアルを提供してもらい、IT知識がゼロでも仕事ができるように訓練。さらに仕事をサポートするスタッフと、福祉的ケアを行うスタッフを完全に分業し、だれもが力を発揮できる体制を整えました。

現在、利用者さんは一人で複数台のPCを操作し、プログラム開発、データ入力やテスター、ホームページ作成など、さまざまな仕事に従事。なかには地元アイドルグループのポスターやCDジャケットをデザインする方や月給20万円を超える人もいます。

「いま多くの企業が、障がいのある方にどんな仕事をしてもらえば良いのかわからず困っています。そんな企業からカムラックが仕事を請け負い、事業所内で利用者さんの習熟をサポート。仕事ができるようになった利用者さんは、そのキャリアを持って企業へ。就労したその日からすぐ活躍していける仕組みを作りました」。

このロールモデルを、賀村さんは全国の施設や企業に発信しています。「僕は、福祉施設にうちのようになれとは言いません。今後は地域企業がやるべきだと思っています。僕がまだできていないことも可能にできる企業がきっとあるはず。全国の施設や企業と共有することで、障がいのある方がやりがいのある仕事とより高い給料を手にするようになったら…。それが本賞をいただいた恩返しにきつとなる、と私は信じています」。



賀村 研氏



A型事業所「ComeLuckラボ西新」



アイドルのポスターやCDジャケットのデザインも



カムラック大分とモニターでつなぎ仕事をフォロー

酒井 勇幸さん

(社福) いなりやま福祉会 (長野県千曲市)

目は不自由でもやるべきことは、はっきりと見える

昭和40年に盲学校を卒業した酒井さんは、稲荷山療育園でリハビリ療法士として勤務。障がいのある方を取り巻く厳しい実情を知ります。「この子たちが大人になったときの生活を想像したら、すぐ動き出さないと!」。酒井さんは療育園で働きながら、4人の利用者さん・親御さんと一緒に長野県初の無認可作業所を立ち上げました。

しかし、最初に始めた洗濯パサミの組立・販売はうまくはいかず給料はわずか数十円程度。「これではいけない」といろいろな会社を訪ね仕事を開拓しました。一つうまくいくとそれが人伝えに広がり、次の仕事へとつながる、そんな感じで一步步つ売上げを伸ばしたのです。

現在は3つの施設で農業、箱折り、部品製造、ウエス・袋物縫製、千曲染、オリジナルのせんべい作りなど、多彩な仕事を用意。職員みんなで話し合い、力を合わせてどんな障がいがある人にも、それぞれに合った働き方や支援方法を工夫しています。ネット販売やふるさと納税の返礼品なども行い、いまでは月額平均給料約3万5,000円を超え、利用者数も約100名に。

「たくさん仕事をできる人もできない人もいますが、額に汗して懸命に頑張っているのは同じ。だから全員一律の給料にしているんですよ」。

酒井さんは、親亡きあとも自立して暮らしていくためのグループホームづくりにも着手します。「困っている人が目の前にいるならやるしかない」と、借金をしてでもグループホームを次々と開設していきました。

「おはよう、いってらっしゃい」。現在、酒井さんの朝は4つのグループホームを巡り、出勤する利用者さんへの声かけから始まります。スタスタと我々の前を歩く姿は、目の見えないハンディなどまったく感じさせません。

「私は目以外にも病気がありましてね。それは新しいことをやりたくて仕方なくなる病気なんです(笑)。利用者さんのために自分たちにながができるか。夢は見るものではなく叶えるもの。これからの時代を担う若い人たちにもこの姿勢を継承してもらいたいと思っています」。



酒井勇幸氏



B型事業所「満天の星」の利用者さん



グループホームで利用者さんと



朝8時からグループホームを回る酒井氏

(公4) 広報・啓発等事業

全Aネット（就労継続支援A型事業所全国協議会）の報告

全Aネットの設立は2015年。2016年にヤマト福祉財団が「A型事業所の実態調査実施」を助成支援以来、さまざまな角度から活動を支援しています。

一つは「良きA型事業所の拡大支援事業」として、全国のA型事業所の経営の健全化をはかり、働く障害のある人のディーセントワークの実現をより一層進めていく活動の支援を行っています。2024年度より、従来の優良認定に加えてベーシック認定を開設し、新たに優良認定6事業所、ベーシック認定6事業所が認定され、認定事業所の合計が64事業所となりました（優良認定事業所のうち3年次更新で8事業所が更新、1事業所が更新辞退）。

また、地方での良きA型事業所の拡大を目指し、就労支援セミナーを行っています。2024年は6年ぶりで、「就労支援セミナー in さっぽろ」を実施しました。

全Aネット 就労支援セミナーinさっぽろ（ハイブリッド開催）

- 日 時：2024年10月12日
- 会 場：ACU アスティ45 16階 研究室1606

これからの人口減少時代におけるA型の役割

2018年の開催より6年ぶりに札幌で就労支援セミナーを開催。現地参加者・オンラインも含めて219名が集まりました。

2024年の報酬改定により最低賃金を保障するA型事業所の経営継続が厳しくなっていることや、多くの事業所が閉鎖された事などを踏まえ、全国のA型事業所へのアンケートを実施。報酬改定では運営がしっかりと行われている事業所はプラスの収益となり、これまでギリギリで経営していた事業所は、廃業やB型に移行するなど、経営が二極化している現状が浮き彫りになりました。

セミナーでは、株式会社インサイト代表取締役の関原深氏による「継続できる正しいA型の経営」というテーマで、事例を挙げながら講演。続いて関原氏と（NPO）ストローク会理事長の村木太郎氏による記念対談は、質問にも答える形で、さらに講演を掘り下げる内容となりました。

最後に現地の株式会社ネクストリソースの大泉浩一氏、一般社団法人Agricolaの水野智大氏、reward株式会社の荒川誠一氏、ノースリーフ合同会社の橋本憲幸氏をパネラーに迎えて、給与体制や、事業拡大の方法、利用者支援などさまざまな方向から、人口減少時代における地域で継続できるA型についてディスカッションが行われました。

挨拶に立った、財団の山内理事長は「報酬改定など、いろいろ難しい面も出てきていますが、大きく言うと障がいのある方の取り巻く環境・方向性が良い意味で前に進んでいるように思います。世間から注目されることで厳しい目が注がれますが、より前進できるというチャンスです」と、メッセージを送りました。



パネルディスカッション



関原深氏(左)と村木太郎氏(右)の記念対談



挨拶に立った山内理事長

日本障害フォーラム (JDF) の報告

2006年、国連総会で障害を理由とした差別禁止と合理的配慮を求める障がい者の権利条約が採択されました。日本は2007年にこの条約に署名し、2014年1月に批准しました。

日本では権利条約採択2年前(2004年)に、JDFが障がい者団体を中心に組織されました。国連対応を念頭に、それまで障害の種類によって独立していた組織が連携したのです。これ以降、障がい者の権利を推進するため、国連の作業部会や日本政府に意見書を提出するなど、積極的な活動を開始しました。ヤマト福祉財団は、JDFに対して、他の福祉財団とともに公益財団法人助成財団センターを窓口とした共同助成を行ってきました。

JDF全国フォーラム

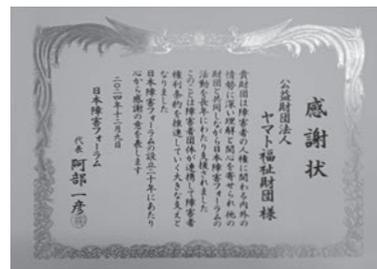
- 日 時：2024年12月9日
- 会 場：戸山サンライズ (東京都新宿区)

JDF20周年の歩みと未来への展望 障害者権利条約のめざす社会の実現に向けて

設立20周年を迎え、JDF全国フォーラムが開催されました。日本が障害者権利条約を批准したのは、JDFの設立から10年目の2014年。日本政府に対して、国連から総括所見が出されたのが2022年です。

フォーラムの中で20年の活動の変遷を写真とともに関係者が報告。また、「障害者分野の近未来を占う 障害者権利条約のめざす社会の実現に向けて」というテーマでJDF副代表の藤井克徳氏と国連障害者権利委員会委員の田門浩氏による対談も行われました。

パネルディスカッションでは、総括所見の実現に向けて関係団体からパネリストが意見を交換。最後にJDF副代表の竹下義樹氏が「社会が進化・変化して行く中で障がい者の暮らしやすさ、生きやすさをどう創り出していくか、みんなと一緒に次の10年をめざしたい。日本政府の第2回目のレポート提出、あるいは我々がパラレルレポートを提出する際に、それを報告できるような運動をやっていくことが重大な課題」とフォーラムの総括を行い、閉会となりました。



20年間の支援への感謝状をいただきました



感謝状を受け取る井上常務理事



パネルディスカッション

(NPO) 医療的ケア児者と 家族を社会につなぐネットワークの報告

(NPO) 医療的ケア児者と家族を社会につなぐネットワーク（ブリッジネットワーク）は、「医療的ケアが必要な人々が住み慣れた地域で安心して暮らせる社会をつくること」を基本理念とし、医療的ケア児者の家族、福祉・医療関係者等、多様な分野の有志が集まり2021年8月に設立されました。重度心身障がい者のご家族は、24時間続く自宅でのケアのため、「働きたい」、「自分の時間をもちたい」という思いを断念し、社会からの孤立を深めています。こうした中、ヤマト福祉財団は、医療的ケア児者のご家族の就労に向けた支援や山積する課題を解決するために、小倉昌男賞受賞者である楠元洋子氏を中心に立ち上げたこの活動を支援しています。

医療的ケア児者と家族を社会につなぐネットワーク

1. 夢応援セミナー「お母さんの働く夢をかなえたい」

医療的ケア児者や重度心身障がい児者のご家族が就労できる環境づくりや働くために必要な資格の取得についてサポートを行うため、沖縄県沖縄市（7月18日）および愛媛県新居浜市（3月30日）の2会場にて、夢応援セミナー「お母さんの働く夢をかなえたい」を開催しました。当日は、「子供たちの居場所となり、親がそこで働ける施設」の立ち上げを願う楠元理事長による基調講演のほか、医療従事者や専門家による講演会や学習会、パネルディスカッションが行われ、ブリッジネットワークの取り組みや「働きたい」という参加者の夢を実現するためのノウハウが共有されました。

2. 障がい者家族の就労のための支援（資格取得支援）

2024年度は、引き続き、医療的ケア児者等のご家族で現在就労できていない方を対象とした資格取得支援制度に関する広報活動を実施しました。具体的には、8月18日～19日に石川県金沢市で開催された全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会総会においてブースを出展し、医療的ケア児者の家族を対象に、事業に関する直接の広報活動を展開しました。

なお、2024年度は4名の申請があり、5名（うち1名は2023年度申請者）が資格を取得しました。

3. ブリッジネットワーク紹介動画の配信

ブリッジネットワークの取り組み内容を広く告知し普及させるため、紹介動画を積極的に配信しています。本年度は夢応援セミナーの紹介など4本の動画をアップし、再生回数のはのべ約3,000回となりました。また、現在掲載している20本の動画のはのべ視聴回数は15万回を超えました。



夢応援セミナー「お母さんの働く夢をかなえたい」（沖縄県沖縄市）



配信動画
「事業所開設から2年目を迎え医療的ケア児をもつ母親の新たな挑戦」

ヤマトグループ ボランティアプロジェクト 活動報告

ヤマト福祉財団では、ヤマト運輸労働組合と連携し、ヤマトグループ社員がそれぞれの地域の障がい者施設とつながり、交流を深めていくボランティアプロジェクトを進めています。障がい者施設が「どこにあるのか、どんなことをしているのか」を知り、より身近にある福祉施設の理解を進めていただくことを目的としています。

4年目となる今年度、農業編はヤマト運輸労働組合の茨城支部と青森支部が、それぞれの地域の福祉施設の農作業を年2回お手伝い。地域福祉活動編は、ヤマト運輸労働組合青年部のみなさんが「ヤマト繋がるプロジェクト^{※1}」として大学生や地域団体と協働。参加した約140名は、三つの企画グループに分かれ、横浜市内の障がいのある方や子どもたちと楽しく交流できる地域イベントの企画、準備、当日の運営を行いました。

※1) このプロジェクトは、若者とさまざまな団体をつないで街を盛り上げる(NPO)アクションポート横浜とのコラボで実現しました。

農業編／まめの木農園

- 日時：2024年 6月15日 ジャガイモの収穫
2024年11月 9日 サツマイモの収穫
- 場所：(株)百笑会 まめの木農園(茨城県石岡市)

茨城県石岡市にある(株)百笑会 まめの木農園は、無肥料・無農薬・無除草剤の自然栽培を行っています。

6月15日、ヤマト運輸労働組合茨城支部の20名(うちお子さんが10名)が、ジャガイモの収穫をお手伝いしました。まめの木農園の北林峻さんは「昨年のジャガイモ栽培は病気が出て収穫はゼロ。この失敗に負けず、今年は3月に太陽熱マルチで土を消毒し種芋を植え付け、大事に栽培を行って来ました」と話します。

真夏のような暑さと慣れない農作業でも、子どもたちは土に触って元気いっぱい。なかには100個も収穫した!と自慢する子も。利用者さんと力を合わせ約2時間で1反、男爵イモ約500キロを収穫しました。

茨城支部の大滝支部執行委員長は「集配に何っても施設でどんな仕事をされているかはわからない。今回のボランティアで理解できましたし、支部として農繁期の応援など交流をもっと広げていきたいと思います」と話していました。

11月9日は組合員とご家族25名が、サツマイモの収穫に参加。「学校や保育園での芋掘り体験がなくなり、このボランティアをすごく楽しみにして来たんです」と話す小沼SDのご家族をはじめ全員がやる気満々です。

まめの木農園さんは6畝を予想していましたが、途中で仕事を終わらせることのできないヤマト魂が炸裂! みんなで力を合わせ残り16畝全部の収穫をやり遂げました。



「利用者さんとの作業の約6倍!です」とまめの木農園さんは大喜び。

大滝委員長は「来年も苗を植えて収穫をお手伝いする計画を立てています。まめの木農園さんとは長いおつきあいになりそうですよ」と今後の活動について話しています。



農業編 / (NPO) 農楽郷ここ・カラダ

- 日時：2024年 6月29日 ニンニクの収穫・皮むき
2024年11月 2日 ニンニクの芽出し
- 場所：(NPO) 農楽郷ここ・カラダ (青森県十和田市)

農楽郷ここ・カラダは、2017年に財団の助成でニンニクの植え付け機やトレーラーを導入。現在、年間20～30トンのニンニクを収穫し、給料は30,000円を超えています。

夏日の暑さの6月29日、ヤマト運輸労働組合青森支部の20名がボランティアに参加しました。予定より少なかったニンニクの収穫のあと、黒ニンニクを作る皮むき作業へ。黒ニンニクに乾燥・加工するため、ニンニクの茎を切り落とし、皮を剥き「6片」の形に整えなければなりません。これはなかなかの重労働で普通なら1日1人約20kg。それを青森支部のみなさんは、2時間で約200kgの皮むきを完了しました。

お昼には、十和田のソウルフードのバラ焼きとニンニク味噌のおにぎりの炊き出しがあり、利用者さんとも楽しく談笑。青森支部の坂井委員長は「これで終わらずにちょっとしたお手伝いでも地域の一員として一緒にやっていきたい。財団を創られた初代理事長の小倉昌男さんの思いをしっかり引き継いでいきます」と意欲的です。

11月2日は、青森支部の23名が参加。温暖化の影響なのかサツマイモの成長が早く、残っていた収穫量はわずかなためニンニクの芽出し作業を主に精を出しました。芽出し作業は、ニンニク畑に張ってあるマルチの横にしゃがみ込み、一つひとつ芽を探しながら曲がって出ている芽を真っ直ぐに直してあげるととても辛い作業です。利用者さんが1日かけて行おう作業を、なんと1時間で完了させました。

青森支部の坂井委員長は「収穫は楽しいし無心でできる。今日、芽出し作業を行ったニンニクの収穫にもぜひ再訪したいと、みんな言っています。ここで生まれた繋がりをこれからも大事に育んでいきたいですね」と話していました。



地域福祉活動編／うちわを仰いでカラフルで賑やかな空間を楽しもう！

- 日時：2024年11月6日
- 場所：東戸塚地域活動ホームひかり（横浜市戸塚区）

協力団体：東戸塚地域活動ホームひかり、
とつか区民活動センター

11月6日、東戸塚地域活動ホームひかりの食堂で開催したイベントには、30名近くのひかりの利用者が参加しました。

まずはヤマト運輸のクロネコをヒントに「猫」をテーマとしたうちわ作りから。会場の参加者は、オンラインで繋がったヤマト運輸労働組合青年部のみなさんと力を合わせ、個性豊かな猫たちをうちわに描いていきました。そのうちわを手に、会場に用意したカラフルなスズランテープなどの揺れる装飾を音楽に合わせて仰ぐうちわ遊びを楽しむことに。会場には戸塚区のマスコットキャラクター「うなしー」が盛り上げ役として登場。「またこんな企画を！」と参加者も開催者もみんなが楽しめるイベントになりました。



地域福祉活動編／シートにペイント！

- 日時：2024年11月16日
- 場所：さかえ福祉活動ホーム（横浜市栄区）

協力団体：(NPO)こんちえると・さかえ福祉活動ホーム、
野七里地域ケアプラザ

世界に一つだけのテーブルクロス・ ランチョンマット作り

11月16日、こんちえるとの利用者さんたちが参加し「シートにペイント！ ～世界に一つだけのテーブルクロス・ランチョンマット作り」を開催しました。

まずはヒーローショーを行い、会場が盛り上がったところで準備しておいた不要なベッドシートにペイントを開始しました。作成中には、オンラインで繋がった青年部のみなさんがペイントに使う型紙にまつわるクイズも出題。やがて、ゴミになるはずだったシートが、それぞれの想いが込められた素敵なテーブルクロス、ランチョンマットへと生まれ変わっていきました。

ヤマト社員が作成したランチョンマットは、今日のイベントで生まれた絆がさらに広がってほしいと願いを込めて施設にプレゼント。会場で利用者さんたちが制作した作品とともに、その後も施設で大切に利用されています。



地域福祉活動編／みんなで繋がる宝探し

- 日時：2024年11月23日
- 場所：都筑区役所6階多目的スペース(横浜市都筑区)

協力団体：横浜市都筑区地域訓練会とまとのおうち・バナナのおうち、
都筑区子育て支援センターPopola

11月23日のイベントには、都筑区役所でとまとのおうち・バナナのおうちの利用者さんと保護者約20名が集いました。

青年部、大学生、さらにとまとのおうち・バナナのおうちの利用者さんがアルミホイルなどを素材にさまざまな色・形で作られたお宝を用意。子どもたちは、会場内に設置したボールプールや段ボールトンネルなどに隠されたキラキラと光るお宝探しの冒険へ。途中には宝を持った「お宝マン」も現れ、ジャンプやハイタッチを成功せよ、といったミッションも。クリアするとお宝をゲットできると、子どもたちはみんな大はしゃぎです。

今日みんなで過ごした思い出が、色あせない宝物として一人ひとりの心に残りますように。集められた宝物は、Popolaの拠点に飾り、イベントに参加した利用者さんや子どもたちがいつでも見ることができるよう展示しました。



ヤマト繋がるプロジェクト報告会

- 日時：2025年2月6日
- 場所：波止場会館(横浜市中区)

2月6日、横浜の波止場会館で開催した報告会には、三つのイベントで活躍した青年部のみなさん、大学生たち、そして連携した施設の方たちが集いました。

初めてのボランティアを初対面の方と、しかもオンラインで…。そんな壁を乗り越え実現した感想を伝え合うことに。「利用者さんや子どもたちの笑顔を見てやって良かったと思った」「社員が用意した作品を利用者さんが使ってくれたとき、繋がっていく喜びを感じた」「いろいろな立場の人たちと交流でき良い経験になった」などの声が上がりました。

山内理事長は、「6ヵ月間頑張ってきたみなさんの活動が、社会が良くなることにきっと繋がっていきます。この輪にヤマトグループも繋がっていきたい。今日は感動をありがとう」とボランティア参加者へメッセージを送りました。



(公5) 復興・再生支援事業

復興・再生支援事業

令和6年能登半島地震

2024年1月1日16時10分頃に、石川県能登地方を震源とする最大震度7を観測する地震が発生しました。被害状況は、死者549名、負傷者1,944名、住宅被害163,724件等が報告されています(2025年3月11日現在 消防庁災害対策本部)。

ヤマト福祉財団では、障がい者及び障がい者福祉施設等の被災状況や被災者のニーズを調査し、支援を行うきょうされんと、現地事務所を設置し、ボランティアや自治体東都連携した支援活動に取り組む日本障害フォーラム(JDF)に対して緊急助成を行いました。2024年度には、社会福祉法人野の花会に対して、被災したカンプレッサーの代替資金を助成しました。

▶ 社会福祉法人 野の花会 障がい福祉サービス事業所ゆうの丘

■助成金：1,000,000円

■空き缶類専用圧縮機 カンプレッサー5購入・設置資金

七尾市にある(社福)野の花福祉会・ゆうの丘では、原木しいたけ栽培や、七尾市内のアルミ缶回収・プレス作業をしています。

2024年1月1日の能登半島地震で、事業所の空き缶プレス機が横転、破損してしまいました。騙し騙し使用していましたが、部品が落下するなど作業にも支障をきたし、いつ故障をするのか、動かなくなるのかわからない状況です。

ヤマト福祉財団では、働く利用者さんを支援するため、「カンプレッサー5」購入資金として100万円を助成しました。



▶ 日本障害フォーラム(JDF) 現地活動報告

日本障害フォーラム(JDF)は、能登半島地震を受け2024年5月13日より、『JDF能登半島地震支援センター』を、現地支援の拠点として七尾市に開設しました。

障がい者の個別支援、就労継続支援事業所、放課後等デイサービス事業所の支援はもとより、自治体・関係団体と連携し情報発信を行っています。

障がい者個別支援では、これまで78人(3月12日現在)に、家の片付け、公的手続きの支援、暮らしや福祉制度に関する相談、移動の支援などを対応しています。就労継続支援事業所、放課後デイサービス事業所では人口流出のため人手不足が続いており、現場での作業支援や送迎支援を中心に実施。短期・単発の支援の他、輪島市、七尾市の4事業所については継続的に支援を行っています。



片付け支援



第31クルールの支援スタッフと本田事務局長

2. 2024 年度決算概要

貸借対照表

2025年3月31日現在
(2024年度)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	53,550,475	59,985,221	-6,434,746
現金	638,710	892,991	-254,281
普通預金	52,911,765	59,092,230	-6,180,465
流動資産合計	53,550,475	59,985,221	-6,434,746
2 固定資産			
基本財産			
投資有価証券	6,031,986,500	6,031,986,500	0
基本財産合計	6,031,986,500	6,031,986,500	0
特定資産			
復興・再生支援事業資金	4,000,000	4,000,000	0
特定資産合計	4,000,000	4,000,000	0
固定資産合計	6,035,986,500	6,035,986,500	0
資産合計	6,089,536,975	6,095,971,721	-6,434,746
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	1,070,282	868,173	202,109
預り金	5,685	17,055	-11,370
流動負債合計	1,075,967	885,228	190,739
負債合計	1,075,967	885,228	190,739
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	5,430,400,000	5,430,400,000	0
(うち基本財産への充当額)	(5,430,400,000)	(5,430,400,000)	0
(うち特定財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	658,061,008	664,686,493	-6,625,485
(うち基本財産への充当額)	(601,586,500)	(601,586,500)	(0)
(うち特定財産への充当額)	(4,000,000)	(4,000,000)	(0)
正味財産合計	6,088,461,008	6,095,086,493	-6,625,485
負債及び正味財産合計	6,089,536,975	6,095,971,721	-6,434,746

2024 年度正味財産増減計算書

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	163,507,000	163,507,000	0
基本財産株式配当	163,507,000	163,507,000	0
受取会費	98,249,000	101,874,000	-3,625,000
賛助会費収入	98,249,000	101,874,000	-3,625,000
受取寄付金	73,430,875	71,016,531	2,414,344
寄付金収入	73,430,875	71,016,531	2,414,344
経常収益計	335,186,875	336,397,531	-1,210,656
(2) 経常費用			
事業費	323,489,635	334,750,582	-11,260,947
奨学金支給	23,100,000	23,550,000	-450,000
助成金支給	129,496,342	128,200,943	1,295,399
震災支援費	1,000,000	6,000,000	-5,000,000
会場費	5,379,553	5,086,364	293,189
運営費	11,667,596	17,410,973	-5,743,377
講師諸費	2,295,769	2,311,068	-15,299
ビデオ・パンフ作成費	730,461	632,744	97,717
システム費用	624,626	2,641,005	-2,016,379
就労支援費	4,000,000	4,000,000	0
委託費	14,918,060	24,682,680	-9,764,620
ホームページ運営費	1,819,778	671,535	1,148,243
贈呈費	30,933,715	33,569,901	-2,636,186
給料手当	19,978,951	20,693,745	-714,794
旅費交通費	15,138,929	16,465,566	-1,326,637
通信運搬費	45,126,793	30,443,073	14,683,720
備品消耗品費	157,059	259,998	-102,939
図書印刷費	12,699,614	14,870,728	-2,171,114
事務室維持費	3,592,140	2,771,822	820,318
会議費	627,129	267,517	359,612
支払手数料	203,120	220,920	-17,800

科 目	当年度	前年度	増 減
管理費	18,322,725	20,504,357	-2,181,632
給料手当	6,659,649	8,745,855	-2,086,206
福利厚生費	380,270	380,601	-331
会議費	236,173	362,376	-126,203
旅費交通費	766,650	810,750	-44,100
通信運搬費	2,580,353	2,068,285	512,068
消耗什器備品費	102,524	93,694	8,830
図書印刷費	5,180,698	4,969,276	211,422
事務室維持費	1,370,880	1,766,172	-395,292
事務機器賃借料	700,713	906,734	-206,021
賦課金	320,595	345,965	-25,370
支払手数料	24,220	54,649	-30,429
経常費用計	341,812,360	355,254,939	-13,442,579
評価損益等調整前当期経常増減額	-6,625,485	-18,857,408	12,231,923
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	-6,625,485	-18,857,408	12,231,923
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
前期経費振替	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
有価証券償還差損	0	0	0
什器備品除却損	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-6,625,485	-18,857,408	12,231,923
一般正味財産期首残高	664,686,493	683,543,901	-18,857,408
一般正味財産期末残高	658,061,008	664,686,493	-6,625,485
II 指定正味財産増減の部			
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	5,430,400,000	5,430,400,000	0
指定正味財産期末残高	5,430,400,000	5,430,400,000	0
III 正味財産期末残高	6,088,461,008	6,095,086,493	-6,625,485

正味財産増減計算書 内訳表

2024年4月1日～2025年3月31日

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計							法人会計	合計
	公1 助成事業	公2 研修・育成	公3 表彰事業	公4 広報啓発等	公5 震災助成	共通	小計		
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
基本財産運用益	0	0	0	0	0	130,805,600	130,805,600	32,701,400	163,507,000
基本財産株式配当	0	0	0	0	0	130,805,600	130,805,600	32,701,400	163,507,000
受取会費	0	0	0	0	0	78,599,200	78,599,200	19,649,800	98,249,000
賛助会費収入	0	0	0	0	0	78,599,200	78,599,200	19,649,800	98,249,000
受取寄付金	0	0	0	0	0	58,744,700	58,744,700	14,686,175	73,430,875
寄付金収入	0	0	0	0	0	58,744,700	58,744,700	14,686,175	73,430,875
経常収益計	0	0	0	0	0	268,149,500	268,149,500	67,037,375	335,186,875
(2) 経常費用									
事業費	160,816,477	57,459,782	15,065,551	84,783,572	1,001,280	4,362,973	323,489,635		323,489,635
奨学金支給	23,100,000	0	0	0	0	0	23,100,000		23,100,000
助成金支給	129,496,342	0	0	0	0	0	129,496,342		129,496,342
震災支援費	0	0	0	0	1,000,000	0	1,000,000		1,000,000
会場費	0	3,759,093	1,620,460	0	0	0	5,379,553		5,379,553
運営費	0	9,082,003	2,113,094	472,499	0	0	11,667,596		11,667,596
講師諸費	133,644	1,965,070	167,055	30,000	0	0	2,295,769		2,295,769
ビデオ/パンフ作成費	0	0	730,461	0	0	0	730,461		730,461
システム費用	83,906	509,920	0	30,800	0	0	624,626		624,626
就労支援費	0	4,000,000	0	0	0	0	4,000,000		4,000,000
委託費	1,510,740	5,588,250	253,000	7,450,570	0	115,500	14,918,060		14,918,060
ホームページ運営費	0	0	0	1,819,778	0	0	1,819,778		1,819,778
贈呈費	0	10,648,715	3,000,000	17,285,000	0	0	30,933,715		30,933,715
給料手当	4,727,407	8,747,162	2,978,858	3,525,524	0	0	19,978,951		19,978,951
旅費交通費	22,080	11,196,259	1,893,595	1,836,720	0	190,275	15,138,929		15,138,929
通信運搬費	941,996	1,068,583	879,980	42,205,425	620	30,189	45,126,793		45,126,793
備品消耗品費	1,320	48,991	48,191	20,000	0	38,557	157,059		157,059
図書印刷費	675,166	406,331	1,333,733	9,922,484	0	361,900	12,699,614		12,699,614
事務室維持費	0	0	0	0	0	3,592,140	3,592,140		3,592,140
会議費	5,636	387,045	40,914	159,562	0	33,972	627,129		627,129
支払手数料	118,240	52,360	6,210	25,210	660	440	203,120		203,120
管理費								18,322,725	18,322,725
給料手当								6,659,649	6,659,649
福利厚生費								380,270	380,270
会議費								236,173	236,173
旅費交通費								766,650	766,650
通信運搬費								2,580,353	2,580,353
賦課金								320,595	320,595
消耗什器備品費								102,524	102,524
図書印刷費								5,180,698	5,180,698
事務室維持費								1,370,880	1,370,880
事務機器賃借料								700,713	700,713
支払手数料								24,220	24,220
経常費用計	160,816,477	57,459,782	15,065,551	84,783,572	1,001,280	4,362,973	323,489,635	18,322,725	341,812,360

科 目	公益目的事業会計							法人会計	合計
	公1 助成事業	公2 研修・育成	公3 表彰事業	公4 広報啓発等	公5 震災助成	共通	小計		
評価損益等調整前当期経常増減額	-160,816,477	-57,459,782	-15,065,551	-84,783,572	-1,001,280	263,786,527	-55,340,135	48,714,650	-6,625,485
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-160,816,477	-57,459,782	-15,065,551	-84,783,572	-1,001,280	263,786,527	-55,340,135	48,714,650	-6,625,485
2. 経常外増減の部									
(1) 経常外収益									
前期経費振替	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用									
有価証券償還差損	0	0	0	0	0	0	0	0	0
什器備品除却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-160,816,477	-57,459,782	-15,065,551	-84,783,572	-1,001,280	263,786,527	-55,340,135	48,714,650	-6,625,485
一般正味財産期首残高	-782,843,997	-306,796,217	-62,771,261	-384,371,810	-19,220,728	1,909,765,650	353,761,637	310,924,856	664,686,493
一般正味財産期末残高	-943,660,474	-364,255,999	-77,836,812	-469,155,382	-20,222,008	2,173,552,177	298,421,502	359,639,506	658,061,008
II 指定正味財産増減の部									
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	4,344,320,000	4,344,320,000	1,086,080,000	5,430,400,000
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	4,344,320,000	4,344,320,000	1,086,080,000	5,430,400,000
III 正味財産期末残高	-943,660,474	-364,255,999	-77,836,812	-469,155,382	-20,222,008	6,517,872,177	4,642,741,502	1,445,719,506	6,088,461,008

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 計算書類は公益法人会計基準（平成20年4月11日、改正平成21年10月16日 改正平成30年6月15日 内閣府公益認定等委員会）を適用している。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産……定率法
- (3) 消費税の会計処理
税込み方式

2. 会計方針の変更

該当なし

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券（指定）	5,430,400,000	0	0	5,430,400,000
投資有価証券（一般）	601,586,500	0	0	601,586,500
小計	6,031,986,500	0	0	6,031,986,500
特定資産				
復興・再生支援事業資金	4,000,000	0	0	4,000,000
小計	4,000,000	0	0	4,000,000
合計	6,035,986,500	0	0	6,035,986,500

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財) (産からの充当額)	(うち一般正味財) (産からの充当額)	(うち負債に対応) する額
基本財産				
投資有価証券（指定）	5,430,400,000	5,430,400,000	0	0
投資有価証券（一般）	601,586,500	0	601,586,500	0
小計	6,031,986,500	5,430,400,000	601,586,500	0
特定資産				
復興・再生支援事業資金	4,000,000	0	4,000,000	0
小計	4,000,000	0	4,000,000	0
合計	6,035,986,500	5,430,400,000	605,586,500	0

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当なし

重要性が希薄なため経費処理

6. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

7. 担保に供している資産

該当なし

8. 保証債務等の偶発債務

該当なし

9. 関連当事者との取引の内容

該当なし

10. 重要な後発事象

該当なし

財 産 目 録

2025年3月31日 現在
(2024年度)

(単位：円)

科 目	金 額	使用目的等
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	53,550,475	
現金	638,710	運転資金
普通預金	52,911,765	
みずほ銀行銀座中央支店	52,911,765	運転資金
流 動 資 産 合 計	53,550,475	
2 固定資産		
(1) 基本財産		
投資有価証券	3,554,500 株	共有財産であり
ヤマトホールディングス株式会社(株式)		うち 80%を公益保有財産として運用益
株数	取得価額	を公益目的事業、20%を管理業務のため
3,200,000 株	5,568,000,000 円	の財産として運用益を法人会計に使用
354,500 株	776,195,475 円	することができる。
流 動 資 産 合 計	601,586,500	
(2) 特定資産		
復興・再生支援事業資金	4,000,000	(普通預金：みずほ銀行銀座中央支店)
		甚大な災害発生時の助成資金に充当
固 定 資 産 合 計	6,035,986,500	
資 産 合 計	6,089,536,975	
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	1,070,282	2025年3月発生費用
預り金	5,685	謝礼金に対する源泉所得税
流 動 負 債 合 計	1,075,967	
負 債 合 計	1,075,967	
正 味 財 産	6,088,461,008	

附 属 明 細 書

1. 基本財産及び特定資産の明細は、財務諸表に対する注記に記載している。
2. 引当金の明細 該当なし

以 上

2025 年 5 月
公益財団法人ヤマト福祉財団

2024 年度事業報告 附属明細書

2024 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2025 年 5 月
公益財団法人ヤマト福祉財団

2024 年度収支決算書

(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

(単位：円)

科 目	予算額			決算額	差額
	事業費会計	法人会計	総合計		
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
(1) 基本財産運用収入	130,805,600	32,701,400	163,507,000	163,507,000	0
①基本財産株式配当	130,805,600	32,701,400	163,507,000	163,507,000	0
(2) 寄付金収入	56,800,000	14,200,000	71,000,000	73,430,875	-2,430,875
①運用財産	56,800,000	14,200,000	71,000,000	73,430,875	-2,430,875
(3) 会費収入	85,600,000	21,400,000	107,000,000	98,249,000	8,751,000
①賛助会費収入	85,600,000	21,400,000	107,000,000	98,249,000	8,751,000
事業活動収入計	273,205,600	68,301,400	341,507,000	335,186,875	6,320,125
2. 事業活動支出					
事業費支出	329,500,000	-	329,500,000	323,489,635	6,010,365
(公1) 助成事業	161,000,000	-	161,000,000	160,816,477	183,523
①奨学金支給	24,000,000	-	24,000,000	23,100,000	900,000
②助成金	130,000,000	-	130,000,000	129,496,342	503,658
i 給料増額支援助成金	110,000,000	-	110,000,000	108,770,000	1,230,000
ii 福祉助成金	20,000,000	-	20,000,000	20,726,342	-726,342
③諸経費	7,000,000	-	7,000,000	8,220,135	-1,220,135
(公2) 研修・育成事業	57,000,000	-	57,000,000	57,459,782	-459,782
①セミナー事業	23,000,000	-	23,000,000	17,788,095	5,211,905
i 会場費	2,877,000	-	2,877,000	2,433,748	443,252
ii 運営費	6,730,000	-	6,730,000	5,615,483	1,114,517
iii 諸経費	13,393,000	-	13,393,000	9,738,864	3,654,136
②雇用促進事業	5,000,000	-	5,000,000	5,269,838	-269,838
i システム費	100,000	-	100,000	161,700	-61,700
ii 就労支援費	4,000,000	-	4,000,000	4,000,000	0
iii 諸経費	900,000	-	900,000	1,108,138	-208,138
③育成プロジェクト	29,000,000	-	29,000,000	34,401,849	-5,401,849
i 実践塾	12,000,000	-	12,000,000	16,997,232	-4,997,232
ii 自然栽培パーティープロジェクト	10,000,000	-	10,000,000	10,300,169	-300,169
iii ゆいジョブ！プロジェクト	7,000,000	-	7,000,000	7,104,448	-104,448
(公3) 表彰事業	14,800,000	-	14,800,000	15,065,551	-265,551
①贈呈費	3,000,000	-	3,000,000	3,000,000	0
②会場費	700,000	-	700,000	1,620,460	-920,460
③運営費	3,700,000	-	3,700,000	2,113,094	1,586,906
④経費	7,400,000	-	7,400,000	8,331,997	-931,997

科 目	予算額			決算額	差額
	事業費会計	法人会計	総合計		
(公4) 広報・啓発等事業	88,700,000	-	88,700,000	84,783,572	3,916,428
① 広報事業	65,700,000	-	65,700,000	64,143,031	1,556,969
i ホームページ運営費	660,000	-	660,000	1,821,758	-1,161,758
ii 図書印刷費	12,800,000	-	12,800,000	9,922,484	2,877,516
iii 通信運搬費	38,257,000	-	38,257,000	42,183,950	-3,926,950
iv 委託費	9,300,000	-	9,300,000	7,358,720	1,941,280
v 諸経費	4,683,000	-	4,683,000	2,856,119	1,826,881
② 啓発事業	300,000	-	300,000	364,526	-64,526
i 諸経費	300,000	-	300,000	364,526	-64,526
③ その他事業	22,700,000	-	22,700,000	20,276,015	2,423,985
i 他団体等の事業支援	7,000,000	-	7,000,000	7,351,404	-351,404
ii 医療的ケア児者プロジェクト	7,000,000	-	7,000,000	5,322,101	1,677,899
iii ボランティアプロジェクト	4,000,000	-	4,000,000	4,713,916	-713,916
iv その他(予備費)	4,700,000	-	4,700,000	2,888,594	1,811,406
(公5) 復興・再生支援事業	5,000,000	-	5,000,000	1,001,280	3,998,720
① 震災支援費	4,900,000	-	4,900,000	1,000,000	3,900,000
② 諸経費	100,000	-	100,000	1,280	98,720
共通	3,000,000	-	3,000,000	4,362,973	-1,362,973
① 諸経費	3,000,000	-	3,000,000	4,362,973	-1,362,973
管理費支出	-	20,000,000	20,000,000	18,322,725	1,677,275
① 人件費	-	8,500,000	8,500,000	6,659,649	1,840,351
② 福利厚生費	-	400,000	400,000	380,270	19,730
③ 旅費	-	800,000	800,000	766,650	33,350
④ 通信運搬費	-	1,300,000	1,300,000	2,580,353	-1,280,353
⑤ 備品消耗品費	-	400,000	400,000	102,524	297,476
⑥ 図書印刷費	-	5,300,000	5,300,000	5,180,698	119,302
⑦ 事務室維持費	-	1,600,000	1,600,000	1,370,880	229,120
⑧ 事務機器賃借料	-	800,000	800,000	700,713	99,287
⑨ 会議費	-	600,000	600,000	236,173	363,827
⑩ 賦課金	-	300,000	300,000	319,795	-19,795
⑪ 支払手数料	-	0	0	25,020	-25,020
事業活動支出計	329,500,000	20,000,000	349,500,000	341,812,360	7,687,640
I 事業活動収支の部	-56,294,400	48,301,400	-7,993,000	-6,625,485	-1,367,515
II 投資活動収支の部					
III 財務活動収支の部					
IV 予備費支出					
当期収支差額	-56,294,400	48,301,400	-7,993,000	-6,625,485	-1,367,515

監査報告書

公益財団法人ヤマト福祉財団

理事長 山内 雅喜 殿

2025年5月15日

公益財団法人ヤマト福祉財団

監事 新 里 智 弘

監事 小 川 悦 男

私たち監事は、2024年4月1日から2025年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次の通り報告致します。

1 監査の方法及びその内容

理事及び職員と意思の疎通を図り、情報の収集に努めるとともに、理事会その他の重要な会議に出席し、理事及び職員からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い当該事業年度に係る計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべて重要な点において適正に示しているものと認めます。

以 上

3. 補 足

寄付金寄贈者名簿

(敬称略：順不同)

寄付者名	寄付者名
ケ ナ フ の 会	大 川 清 一
西 野 忍	當 麻 貴 史

ヤマト運輸（株）本社ビル建て替え等に伴うご祝意としての寄付金を90社から受領致しました

夏のカンパ

寄 付 者 名
ヤマトグループ企業労働組合連合会

賛助会員数一覧

2025年3月31日現在

会社名	会員数	会社名	会員数
ヤマトホールディングス株式会社	18	ヤマトオートワークス北信越株式会社	9
ヤマト運輸株式会社	63,067	ヤマトオートワークス岩手株式会社	22
沖縄ヤマト運輸株式会社	444	ヤマトオートワークス沖縄株式会社	2
YDM 株式会社	3	ボックスチャーター株式会社	12
ヤマトコンタクトサービス株式会社	304	ヤマトボックスチャーター株式会社	966
ヤマト・スタッフ・サプライ株式会社	398	ヤマトマルチチャーター株式会社	283
湖南工業株式会社	311	神戸ヤマト運輸株式会社	30
旧ヤマトホームコンビニエンス株式会社	1	株式会社スワン	6
ヤマトシステム開発株式会社	796	ヤマトグループ健康保険組合	19
ヤマトリース株式会社	66	社会福祉法人ヤマト自立センター	14
ヤマトクレジットファイナンス株式会社	84	ヤマト運輸労働組合	43
ヤマトオートワークス株式会社	1,334	合 計	68,232

2025年度役員名簿

理事

2025年6月11日現在

NO	役職名	氏名	役職
1	理事長	山内 雅喜	ヤマトホールディングス株式会社 参与
2	理事	蒲原 基道	日本社会事業大学 学長室 社会福祉研修センター 客員教授
3	同	西堀 利	株式会社みずほフィナンシャルグループ 特別顧問
4	同	上野 容子	東京家政大学 名誉教授
5	同	菅野 敦	東京学芸大学 名誉教授
6	同	森下 明利	ヤマトグループ企業労働組合連合会 会長
7	同	佐々木敬史郎	元ヤマトオートワークス株式会社 代表取締役社長
8	同	井上 貴博	ヤマト福祉財団 常務理事

監事

NO	役職名	氏名	役職
1	監事	新里 智弘	公認会計士
2	同	小川 悦男	元ヤマトホールディングス株式会社 監査役

評議員

2025年6月11日現在

NO	役職名	氏名	役職
1	評議員	今野 由梨	ダイヤル・サービス株式会社 代表取締役社長
2	同	藤井 克徳	きょうされん 専務理事
3	同	吉井 毅	元新日本製鉄（現日本製鉄）株式会社 代表取締役副社長
4	同	上林 孝典	元伊藤忠商事株式会社 取締役副社長
5	同	朝日 雅也	埼玉県立大学 名誉教授
6	同	小野崎貴志	ヤマト運輸労働組合 副中央執行委員長
7	同	玉川 雅浩	元ヤマトシステム開発株式会社 代表取締役常務執行役員
8	同	小菅 泰治	ヤマト運輸株式会社 取締役会長

福祉助成金選考委員

2025年6月11日現在

NO	役職名	氏名	役職
1	選考委員	朝日 雅也	埼玉県立大学 名誉教授
2	同	原田 健児	社会福祉法人清水基金 顧問
3	同	小野崎貴志	ヤマト運輸労働組合 副中央執行委員長
4	同	石井 雅之	ヤマト運輸株式会社 常務執行役員
5	同	山内 雅喜	ヤマトホールディングス株式会社 参与

ヤマト福祉財団小倉昌男賞選考委員

2025年6月11日現在

NO	役職名	氏名	役職
1	選考委員	藤井 克徳	きょうされん 専務理事
2	同	蒲原 基道	日本社会事業大学 学長室 社会福祉研修センター 客員教授
3	同	今野 由梨	ダイヤル・サービス(株) 代表取締役社長
4	同	森下 明利	ヤマトグループ企業労働組合連合会 会長
5	同	山内 雅喜	ヤマトホールディングス株式会社 参与

4. 2025 年度事業計画書

同 収支予算書

資金調達及び設備投資の見込みについて

2025年度 事業計画書

(自・2025年4月1日～至・2026年3月31日)

はじめに

国内の景気は回復基調にあり、障がい者福祉分野における活動も活発化してきました。その一方で、2024年1月に発生した能登半島地震の被災地における復興は遅々として進まず、いまだに多くの方々が不自由な生活を余儀なくされています。

こうした中、2025年度については、新たな取り組みとして「農福経営実践塾」を立ち上げ、小倉昌男賞受賞者を塾長とした2年間の勉強会を開催し、福祉事業所における経営力強化と工賃向上を目指します。また、障がい者の働く力を育てる理論と旧新堂塾で培ったノウハウを集約したテキストを制作・出版するほか、昨年度より開始した販路拡大研究会での研究活動を本格化し成果につなげます。併せて、能登半島における震災復興・再生支援も継続します。

なお、本年度より助成金選考プロセスのオンライン化やホームページを活用した積極的な情報配信を推進します。また、事業番号(公1～公6)の見直しを行い、事業区分をわかりやすく整理します。

(公1) 助成事業 【164,300千円】

① 奨学金 (24,000千円)

40名の障がいのある大学生に対して奨学金を給付します。

② 助成金 (130,000千円)

i. 給料増額支援助成金 <110,000千円>

障がい者の給料増額につながる設備・備品購入として、障がい者施設を対象に助成します。

ii. 障がい者福祉助成金 <20,000千円>

障がい者の福祉に資する活動(講演会・研修・文化・スポーツ等)について、障がい者団体並びにボランティア団体を対象に助成します。

③ その他 (10,300千円)

(公2) 研修・育成事業 【42,800千円】

① セミナー事業 (16,500千円)

障がい者の働く場でさまざまな実績を上げた方々を招いて、障がいのある人の仕事や暮らしについて参加者もいっしょに考えを深めていく「障がい者の働く場パワーアップフォーラム」を東京会場、名古屋会場の2か所で開催します。

② 育成・調査研究 (18,600千円)

農福経営実践塾は、農業を事業とする福祉施設の経営者・事業責任者を対象に、経営を基礎から学び直し、理論と実践を両建するための実践塾として、2025年度に開講いたします。農作物の栽培から収穫までの技術の習得はもとより、福祉施設としての就労支援や施設運営の取り組み方や改善について学び、事業所経営を発展させることで工賃・給料アップを実現していきます。

販路拡大研究会は、障がい者施設で販売している商品の販路拡大のロールモデルを立ち上げるための研究会として検討・検証を継続します。

また、働く意欲のある障がい者が、社会で一層活躍できるように「働く力と工賃向上」について、学識

経験者とともにテキスト監修を行います。

③ その他（7,700千円）

（公3）顕彰事業【15,000千円】

① ヤマト福祉財団小倉昌男賞の贈呈（15,000千円）

ヤマト福祉財団では、障がい者の仕事づくりや雇用の創出、拡大、労働条件の改善などを積極的に推し進め、障がい者に働く喜びと生きがいをもたらしている個人を対象に、2025年度も「ヤマト福祉財団小倉昌男賞」を贈呈します。

（公4）広報事業【43,200千円】

① 財団NEWS（37,300千円）

財団Newsを発行し、賛助会員を中心としたヤマトグループ社員や関係企業、団体に広く当財団の活動を広報いたします。2025年度は年2回発行します。

② ホームページ（3,000千円）

ホームページを活用し、機動的かつ社会に広く当財団の活動を広報いたします。

③ その他（2,900千円）

（公5）復興・再生支援事業【5,000千円】

① 復興・再生支援事業（5,000千円）

大規模災害等で被災した障がい者就労施設の再生支援のための資金枠を確保します。

（公6）団体・活動支援等事業【47,600千円】

① 団体・活動支援事業（37,600千円）

障がい者の自立と社会参加を促進するための活動ならびにその活動を推進する団体を支援する事業です。

i. ヤマト自立センター < 5,000千円 >

ヤマト自立センターの活動を全般的にサポートし、障がい者就労の拡大を図ります。

ii. 日本障害フォーラム（JDF）による「障害者の権利条約」に関する事業 < 1,000千円 >

「障害者の権利条約」について国連障害者権利委員会に提出するNGOパラレルレポートの準備活動と国内啓発活動に対し、公益財団法人助成財団センターを窓口として、他の福祉系財団とともに共同助成を行いサポートします。

iii. 「自然栽培パーティ」プロジェクト < 8,000千円 >

休耕田・耕作放棄地を利用した無農薬・無肥料による自然栽培を推進する「自然栽培パーティ」の活動を、引き続き支援していきます。

iv. 全Aネットによる良質なA型事業所認定事業 < 5,000千円 >

良質なA型事業所の増加に向けて、本制度の審査活動を、引き続き支援していきます。また、本団体の主催による、良きA型事業所の運営や経営に直接役立つ内容のセミナー開催を支援します。

- v. 医療ケア児者と家族を支える団体の活動支援< 6,000 千円>
医療的ケア児者本人とその家族の医療、教育、福祉の各場面を支える団体「特定非営利活動法人 医療的ケア児者と家族を社会につなぐネットワーク」の活動を、引き続き支援していきます。
- vi. ゆいジョブ！プロジェクト< 6,000 千円>
沖縄県内の地元メンバーで構成するゆいジョブ！実行委員が中心となり企画・運営している福祉事業所と一般企業をつなぐビジネスマッチング活動を、引き続き支援していきます。
- vii. ボランティアプロジェクト< 3,200 千円>
ヤマトグループの社会貢献活動の一つとして、労働組合による協力のもと、グループ社員と福祉事業所の利用者、職員等との交流の場を提供することで地域連携を深める活動を行います。
- viii. その他< 3,400 千円>

② **その他（10,000千円）**

応援団体協賛金等の予備費として計上します。

以 上

2025 年度収支予算書

(2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

(単位：千円)

科 目	事業費会計	法人会計	総合計	前年計画
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
(1) 基本財産運用収入	130,800	32,700	163,500	163,507
(2) 寄付金収入	49,200	12,300	61,500	71,000
(3) 賛助会費収入	73,600	18,400	92,000	107,000
① 個人会員 (ヤマト社員)	52,800	13,200	66,000	77,000
② 法人会員 (YHD)	20,800	5,200	26,000	30,000
事業活動収入計	253,600	63,400	317,000	341,507
2. 事業活動支出				
事業費支出	322,400	-	322,400	329,500
(公1) 助成事業	164,300	-	164,300	161,000
① 奨学金	24,000	-	24,000	24,000
② 助成金	130,000	-	130,000	130,000
i. 給料増額支援助成金	110,000	-	110,000	110,000
ii. 障がい者福祉助成金	20,000	-	20,000	20,000
その他	10,300	-	10,300	4,600
(公2) 研修・育成事業	42,800	-	42,800	35,000
① セミナー事業	16,500	-	16,500	17,000
② 育成・調査研究	18,600	-	18,600	18,000
その他	7,700	-	7,700	7,000
(公3) 顕彰事業	15,000	-	15,000	14,800
① ヤマト福祉財団小倉昌男賞の贈呈	15,000	-	15,000	12,600
(公4) 広報事業	43,200	-	43,200	65,700
① 財団 NEWS	37,300	-	37,300	62,723
② ホームページ関連	3,000	-	3,000	660
その他	2,900	-	2,900	2,317
(公5) 復興・再生支援事業	5,000	-	5,000	5,000
① 復興・再生支援事業	5,000	-	5,000	5,000
(公6) 団体・活動支援等事業	47,600	-	47,600	45,000
① 団体・活動支援事業	37,600	-	37,600	41,000
i. ヤマト自立センター	5,000	-	5,000	5,000
ii. 日本障害フォーラム	1,000	-	1,000	1,000
iii. 「自然栽培パーティ」プロジェクト	8,000	-	8,000	10,000
iv. 全Aネット	5,000	-	5,000	6,000
v. ブリッジネットワーク (医療ケア)	6,000	-	6,000	7,000
vi. ゆいジョブ!プロジェクト	6,000	-	6,000	7,000
vii. ボランティアプロジェクト	3,200	-	3,200	3,300
viii. その他	3,400	-	3,400	1,700
② その他 (予備費)	10,000	-	10,000	4,000

(単位：千円)

科 目	事業費会計	法人会計	総合計	前年計画
共通	4,500	-	4,500	3,000
管理費	-	20,600	20,600	20,000
事業活動支出計	322,400	20,600	343,000	349,500
I 事業活動収支の部	-68,800	42,800	-26,000	-7,993
II 投資活動収支の部	0	0	0	0
III 財務活動収支の部	0	0	0	0
IV 予備費支出	0	0	0	0
計画収支差額	-68,800	42,800	-26,000	-7,993

資金調達及び設備投資の見込みについて

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

(1) 資金調達の見込みについて

当期中における借入れの予定はありません。

(2) 設備投資の見込みについて

当期中における重要な設備投資（除却又は売却を含む。）の予定はありません。

以上